

すずむし

NO.134
Apr, 1999

倉敷昆虫同好会

岡山県内産アリ科採集品目録

近藤光宏*

岡山県内産アリ科について、主として1975年ごろ（古いものでは1959年ごろからのものも含む）から筆者採集によるものや、他者より提供して頂いていたものなどを中心に、既発表分、未発表分併せて4亜科（ハリアリ亜科、フタフシアリ亜科、カタアリ亜科、ヤマアリ亜科）36種をそれぞれデータを添えて報告する。

注目される種としては、1974年発見のインドオオズアリ、1982年発見のツノアカヤマアリ及び1987年発見のニシムネアカオオアリの3種があげられる。

インドオオズアリは、村上陽三博士同定によるもので、当時は *Pheidole indica*との学名のみで和名はまだ付されていなかった。分布としては九州及び四国においてわずかな記録があるだけで、本州からは倉敷市下津井のものが初記録となり注目された。

ツノアカヤマアリは、中国地方が分布の西限とされていたが、県最北部の蒜山高原において記録され、岡山県にも分布することが明らかになった。

ニシムネアカオオアリは、当時九州に分布し、本州では山口県のみが知られていた。和名も改名される前はキュウシュウムネアカオオアリと呼ばれていた。岡山県では、山崎崇氏（当時小学校3年生）の提言がきっかけとなり、その後の調べで県中部以北に分布していることが明らかになった。しかし、既記録地はムネアカオオアリほど多くないようである。

本稿をまとめにあたり、1975年当時九州大学農学部の村上陽三博士には、アリについての同定のほか、数々のご助言を頂いた。一方、元倉敷昆虫館館長の故

重井博氏には数多くの標本をお譲り頂いたほか、いつも暖かいご支援を頂いた。また、次の方々には標本のほか、貴重な情報の提供を賜った。ここに紙面をお借りして深謝申し上げる。

青野孝昭・生藤佳郎・小倉智史・佐藤國康・立原（玉島）・平田（玉島本所）・松本吏樹郎・矢野重明・山内康彦・山崎崇・山崎法子の諸氏（50音順、敬称は省略させて頂いた）

凡例

データは個体数（または♂♀別個体数）、記録地名、記録年月日、記録者名、同定者名の順に記し、観察事項等のあるものはそれも付記してある。なお、記録者名を省略してあるものは、すべて筆者採集によるものである。

データは古いものから順に記してある。

紙面の都合で、データの特に多い郡・市を除いては、一郡・市当たり1~2例を掲げるに止めてある。

学名及び和名は、日本蟻類研究会編（1989）・（1991）・（1992）に従った。

既発表文献の中には、発行部数が少なく入手しがたいものもあり、また同じ記録を再度発表したものもあるので、この際これらの記録については、「→」を付し、後にデータを添えて相関関係を明らかにした。即ち「→」に続くデータは既発表データである。

HYMENOPTERA ハチ目

Formicidae アリ科

Ponerinae ハリアリ亜科

1. *Brachyponera chinensis* EMERY オオハリアリ
lex., 倉敷市小黒田, 13. VI. 1976, 村上陽三氏同定

* 〒710-0046 倉敷市中央2-6-1

倉敷市立自然史博物館

6exs., 倉敷市中央, 11. VIII. 1979, 内2exs. 村上陽三氏同定

9exs., 岡山市日応寺, 18. XI. 1979

重井博ほか3名 (1982) → 3exs., 倉敷市児島柳田, 3. VII. 1980

6exs., 和気郡日生町鹿久居島千軒湾, 1. VIII. 1982,
他にアカマツの朽木で多数個体目撃

15exs., 和気郡日生町鹿久居島九艘泊, 12. VI. 1983,
他にマツの朽木で多数個体目撃

Myrmicinae フタフシアリ亜科

2. *Crematogaster laboriosa* F.SMITH

ツヤシリアゲアリ (旧トビイロシリアゲアリ)

36exs., 倉敷市中央, 8. XII. 1975, 村上陽三氏同定

1ex., 岡山市勝尾岬, 23. VII. 1982

1ex., 真庭郡新庄村土用, 5. VI. 1983

1ex., 和気郡日生町鹿久居島九艘泊, 12. VI. 1983

2exs., 真庭郡新庄村土用, 24. VII. 1983

1ex., 玉野市下山坂, 18. IX. 1983

1ex., 阿哲郡哲多町おもつぼ湿原, 24. VIII. 1994

7exs., 新見市草間羅生門, 1. V. 1997

1ex., 岡山市津高鳥山, 31. V. 1997

3. *Crematogaster osakensis* FOREL

キイロシリアゲアリ

4exs., 真庭郡久世町中原池の谷池, 16. X. 1993,
青野孝昭氏採集

4. *Crematogaster* sp. シリアゲアリの一種

1♀3exs., 倉敷市生坂, 26. I. 1975, 村上陽三氏同定

重井博ほか2名 (1996) (1998b) → 1♀3exs., 倉敷市六口鳥, 24. XI. 1975, 村上陽三氏同定

5. *Myrmica kotokui* FOREL シワクシケアリ?

3exs., 苫田郡奥津町三子原, 1. VI. 1975, 村上陽三氏同定

7exs., 阿哲郡哲西町鯉が澤, 19. VI. 1983

1ex., 真庭郡新庄村田浪毛無山, 29. V. 1984, 青野孝昭氏採集

重井博ほか4名 (1997) → 3exs., 英田郡西栗倉村若杉原生林, 15. IX. 1991, 枯木中

1ex., 真庭郡中和村大原, 11. VI. 1994

1ex., 真庭郡新庄村田浪毛無山, 29. V. 1994, 青野孝昭氏採集

1ex., 阿哲郡哲多町引無おもつぼ湿原, 5. IX. 1994,
青野孝昭氏採集, ベイトトラップ

6. *Myrmica kurokii* FOREL クロキクシケアリ?

重井博ほか4名 (1997) → 6exs., 英田郡西栗倉村若杉原生林, 23. VIII. 1993

4exs., 真庭郡新庄村田浪毛無山, 5. IX. 1993

7. *Pristomyrmex pungens* MAYR アミメアリ

53例と記録件数が多いので、岡山市及び倉敷市は数例を、そして両市以外の都市は1~2例を掲げるに止めた。

近藤光宏 (1976) → 24exs., 倉敷市林, 9. II.
1975, 畑のあぜの中で大群をなしていた。

11exs., 総社市草田, 15. VI. 1975

畔柳鎮ほか5名 (1980) → 7exs., 真庭郡落合町木山, 17. IX. 1978

畔柳鎮ほか5名 (1980) → 2exs., 英田郡英田町真上

真木山, 17. IX. 1978

近藤光宏 (1981) → 5exs., 倉敷市粒江種松山七つ池, 17. VI. 1979, 30mにおよぶ行列目撃

1ex., 上房郡賀陽町吉川八幡, 15. VII. 1979

重井博ほか3名 (1982) → 6exs., 久米郡久米南町仏教寺, 29. VII. 1979, 他に行列目撃

7exs., 岡山市日応寺, 18. XI. 1979

4exs., 岡山市正儀, 22. VI. 1980, 他に行列目撃

1ex., 苫田郡奥津町県立森林公园, 6. IX. 1981, 重井博氏採集

1ex., 岡山市勝尾岬, 20. VI. 1982

6exs., 和気郡日生町鹿久居島千軒湾, 1. VIII. 1982,
他に多数個体目撃

近藤光宏 (1983) → 10exs., 倉敷市酒津八幡山, 3. VIII. 1982, カヤのアリマキで目撃

多数個体, 浅口郡鶴方町照山, 10. VII. 1982, ヌルデのアリマキで日撃

5exs., 玉野市水口, 14. VIII. 1983, 他にニレの幹で行列を目撃

8exs., 赤磐郡吉井町高田北平山, 21. VIII. 1983

3exs., 倉敷市釜島, 22. VI. 1986, 他に潮の引いた砂浜で15m位の行列を目撃

近藤光宏 (1991a) → 2exs., 高梁市臥牛山, 3. VII. 1988

重井博ほか2名 (1990) → 1ex., 和気郡佐伯町田賀県自然保護センター, 28. V. 1989, 青野孝昭氏採集

5exs., 倉敷市児島仙隨山, 20. V. 1990

1ex., 阿哲郡神郷町三室, 29. VII. 1991

行列, 倉敷市中央2丁目16-14, 17. V. 1992, 目撃

5exs., 真庭郡久世町木目岩井谷池, 25. VI. 1994,
他に水田の石垣で行列を目撃

7exs., 阿哲郡哲多町引無おもつぼ湿原, 3. VII.

- 1994, 他に行列目撃
9exs., 赤磐郡瀬戸町塩納, 16. VII. 1994, 他に行列目撃
重井博ほか2名 (1998a) → lex., 岡山市西大寺一宮 安仁神社, 10. VII. 1995
2exs., 岡山市築港緑町阿部池, 15. IX. 1996, 他に多数個体目撃
lex., 岡山市津高烏山, 31. V. 1997
8exs., 新見市草間羅生門, 1. VI. 1997, 他に多数個体をクマイチゴのアブラムシで目撃
8. *Myrmecina graminicola nipponica* WHEELER
カドフシアリ?
10exs., 真庭郡新庄村土用, 24. VII. 1983, 大木の穴
9. *Monomorium intrudens* F.SMITH ヒメアリ
9exs., 新見市草間, 27. VII. 1975, 村上陽三氏同定
13exs., 岡山市上高田勝尾峠, 6. VIII. 1982
lex., 岡山市掛畠千升峠, 23. VII. 1982
7exs., 赤磐郡吉井町室原, 5. VI. 1995, 花
10. *Monomorium pharaonis* (LINNAEUS) イエヒメアリ
2exs., 倉敷市老松町, 16. VI. 1982, マンション5階で山内康彦氏採集
11. *Pheidole fervida* F.SMITH
アズマオオズアリ (旧アズマオオズアカアリ)
重井博ほか3名 (1982) → 23exs., 真庭郡新庄村田浪毛無山, 26. VI. 1976, 村上陽三氏同定
兵アリlex., 阿哲郡神郷町三室, 19. VII. 1991
兵アリlex. 32exs., 真庭郡勝山町星山, 26. VII. 1998, 暗い林の中
12. *Pheidole nodus* F.SMITH
オオズアリ (旧オオズアカアリ)
兵アリ 5exs. 13exs., 倉敷市玉島阿賀崎, 26. IX. 1975, 村上陽三氏同定
兵アリ職アリ多数個体, 倉敷市玉島阿賀崎, 7. VII. 1976, 目撃, 兵アリ対職アリの数比は大体1対10
兵アリ 2exs. lex., 倉敷市小黒田, 13. VI. 1976, 村上陽三氏同定, 農薬の空中散布死
近藤光宏 (1981) → 9exs., 倉敷市藤戸, 7. VIII. 1979, 内3exs. 村上陽三氏同定
lex., 岡山市日応寺, 26. IX. 1979
14exs., 浅口郡金光町上竹, 24. X. 1979
7exs., 倉敷市玉島沙美, 7. VI. 1981, 海岸の砂浜
10exs., 倉敷市鶴形山, 10. VII. 1984, 捨てられた餌に群がる
2exs., 新見市羅生門, 11. VII. 1996
13. *Pheidole indica* MAYR
インドオオズアリ (旧インドオオズアカアリ)
- 近藤光宏 (1976) (1980) → 兵アリ職アリ多数個体, 倉敷市下津井城山, 26. XII. 1974, 村上陽三氏同定, 当時本州初記録
14. *Aphaenogaster famelica* (F.SMITH) アシナガアリ
82例と記録件数が多いので, 一部の都市を除き, 各都市共1~2例を掲げるに止めた。
6exs., 川上郡川上町穴門山, 6. VII. 1975
2exs., 倉敷市児島由加山, 20. VII. 1975
2exs., 阿哲郡神郷町, 6. IX. 1975, 夜間灯火下で活動中
lex., 倉敷市連島山, 22. X. 1975
1ex., 真庭郡八束村中蒜山, 27. VI. 1976
重井博ほか3名 (1982) → lex., 真庭郡新庄村田浪毛無山, 26. VI. 1976
1ex., 英田郡東粟倉村後山, 25. VII. 1976
畔柳鎮ほか5名 (1980) → 2exs., 真庭郡落合町木山, 17. IX. 1978
2exs., 上房郡賀陽町吉川八幡, 29. VII. 1979
1ex., 久米郡福渡友愛の丘, 12. VIII. 1980
1ex., 総社市美袋松尾, 16. XI. 1980
1ex., 赤磐郡吉井町高田北平山, 21. VIII. 1983
1♀2exs., 新見市草間羅生門, 29. IV. 1984
1ex., 倉敷市鶴形山, 10. VI. 1984
3exs., 真庭郡新庄村土用, 2. VI. 1985
近藤光宏 (1991a) → lex., 高梁市臥牛山, 1. V. 1988
1ex., 赤磐郡吉井町宗形神社, 8. VII. 1989
1ex., 御津郡中山, 18. VIII. 1989
重井博ほか4名 (1997) → 2exs., 英田郡西粟倉村若杉原生林, 15. IX. 1991
1ex., 苫田郡奥津町奥津峡, 26. VI. 1995
1ex., 倉敷市玉島円通寺, 20. VI. 1997, 他に3exs. 目撃
15. *Messor aciculatum* (F.SMITH) クロナガアリ
1ex., 岡山市日応寺, 18. XI. 1979, 山門下の砂上を1個体のみゆっくりとさ迷っていた。
12exs., 倉敷市酒津公園, 22. XI. 1992, 草の種子をくわえて運んでいた。
- 多数個体, 倉敷市酒津公園, 28. XI. 1992, 目撃
重井博ほか2名 (1995) → 7exs., 総社市砂川公園, 16. X. 1994, 他に雑草の間に数個の営巣を目撃
4exs., 倉敷市児島由加山桜園地, 10. IX. 1997, 他に多数個体目撃
16. *Tetramorium caespitum* (LINNAEUS)
トビイロシワアリ
17exs., 倉敷市玉島, 20. VI. 1975, 村上陽三氏同定

- 6exs., 新見市, 6. IX. 1975
 4exs., 阿哲郡神郷町, 6. IX. 1975, 村上陽三氏同定
 1ex., 阿哲郡神郷町足立, 6. IX. 1975
 9exs., 倉敷市向山, 14. V. 1977
 近藤光宏 (1981) → 3exs., 倉敷市藤戸, 7. VIII. 1979, 内1ex. 村上陽三氏同定
 1ex., 倉敷市鶴形山, 24. IX. 1984
 1ex., 岡山市日応寺藤が鳴湿原, 21. VII. 1984, ヒメバチ・ミミズの死骸に集まる。
 重井博ほか2名 (1996) (1998b) → 6exs., 倉敷市六口島, 3. IX. 1990, 海岸の砂浜で巣を目撃
 重井博ほか4名 (1997) → 1ex., 英田郡西栗倉村若杉原生林, 7. VI. 1992
 6exs., 倉敷市児島由加山, 27. IV. 1997, 捨てられたミツバチの巣板に集まる。
 5exs., 倉敷市玉島上成, 29. VII. 1998, 小倉智史氏採集, 側溝で多量に死んでいた。
17. *Tetramorium nipponense* WHEELER キイロオオシワアリ
 15exs., 真庭郡川上村三木ガ原, 27. VI. 1976, 内3exs. 村上陽三氏同定
18. *Leptothorax congruus* SMITH ムネボソアリ
 近藤光宏 (1981) → 3exs., 倉敷市藤戸, 7. VIII. 1979, 内1ex. 村上陽三氏同定
 7♀, 上房郡賀陽町吉川八幡, 15. VII. 1979, 内1♀ 村上陽三氏同定
 近藤光宏 (1991b) → 2exs., 倉敷市児島由加白尾, 20. V. 1990
19. *Leptothorax spinosinr* FOREL ハリナガムネボソアリ
 近藤光宏 (1981) → 4exs., 倉敷市藤戸, 7. VIII. 1979, 内1ex. 村上陽三氏同定
 25exs., 浅口郡鴨方町照山, 10. VIII. 1982
- Dolichoderinae カタアリ亞科 (旧ルリアリ亞科)
20. *Hypoclinea sibirica* (EMERY) シベリアカタアリ
 2exs., 総社市美袋, 15. VI. 1975, 村上陽三氏同定
 近藤光宏 (1991a) → 12exs., 高梁市臥牛山, 21. III. 1976, 径5cm位の枯木の隨の穴で採取
 2exs., 真庭郡久世町中原, 11. VI. 1990, 青野孝昭氏採集
21. *Iridomyrmex itoi* FOREL ルリアリ
 近藤光宏 (1976) (1983) → 多数個体, 倉敷市酒津八幡山, 29. XII. 1974, 枯れたアカマツの樹皮下
 近藤光宏 (1976) → 多数個体, 倉敷市二子高島居山,
15. I. 1975
 近藤光宏 (1976) → 多数個体, 倉敷市山地日差山, 15. I. 1975, 村上陽三氏同定
 近藤光宏 (1976) → 多数個体, 倉敷市林, 9. II. 1975, 村上陽三氏同定
 1ex., 倉敷市六口島, 24. XI. 1975, 村上陽三氏同定
 1ex., 岡山市日応寺, 2. XII. 1979
 1♀ 6exs., 岡山市大内田, 27. IV. 1980
 1ex., 倉敷市向酒津, 15. III. 1981, タラの芽で10exs., 和気郡日生町鹿久居島千軒湾, 1. VIII. 1982, 他にアカマツの枯木で多数個体目撃
 2exs., 津山市金井, 31. XII. 1985, 他に多数個体目撃
 1ex., 倉敷市釜島, 22. VI. 1986
 1ex., 久米郡柵原町飯岡上, 12. XI. 1994
 3exs., 勝田郡勝央町勝間田小中, 12. XI. 1994
 1ex., 倉敷市児島由加山, 27. IV. 1997, 捨てられたミツバチの巣板に集まる。
- Formicinae ヤマアリ亞科 (旧クマアリ亞科)
22. *Camponotus japonicus* MAYR クロオオアリ
 430例と記録件数が多いので、一部の都市を除き、各都市共1~2例を掲げるに止めた。
 1♀, 新見市市街地, 3. V. 1968, 矢野重明氏採集
 4exs., 総社市延原, 5. V. 1975, イタドリの葉上
 1ex., 苫田郡上齋原村恩原川, 8. VI. 1975
 近藤光宏 (1976) → 1♀ 6exs., 倉敷市二子高島居山, 15. I. 1975, 青野孝昭氏採集, 村上陽三氏同定
 2exs., 阿哲郡神郷町新郷, 6. IX. 1975, 夜間灯火下で活動中
 重井博ほか3名 (1982) → 1ex., 真庭郡新庄村田浪毛無山, 19. IX. 1976
 1ex., 岡山市日応寺十二本木山, 5. IX. 1978
 6♂ (羽アリ) 1ex., 総社市宝福寺, 19. VI. 1978
 畔柳鎮ほか5名 (1980) → 1ex., 真庭郡落合町木山, 17. IX. 1978
 畔柳鎮ほか5名 (1980) → 1ex., 岡山市金山, 1. X. 1978, カヤ
 畔柳鎮ほか5名 (1980) → 2exs., 小田郡矢掛町猿掛, 15. IX. 1978, ウツギ
 畔柳鎮ほか5名 (1980) → 2exs., 英田郡英田町真木山, 3. IX. 1978, 重井博氏採集
 重井博ほか3名 (1982) → 1ex., 岡山市足守大井神社, 22. VII. 1979, 重井博氏採集
 1ex., 井原市東江原千手院, 17. VI. 1979, 重井博氏

採集

重井博ほか3名 (1982) →lex., 備前市闇谷, 24. VI. 1979, 重井博氏採集
 重井博ほか3名 (1982) →lex., 久米郡久米南町仏教寺, 9. IX. 1979, 重井博氏採集
 lex., 岡山市正儀, 13. VII. 1980
 重井博ほか3名 (1982) →lex., 倉敷市児島柳田, 2. VIII. 1980, 他に多数個体目撃
 重井博ほか3名 (1982) →lex., 御津郡御津町宇甘溪, 3. VIII. 1980, 他に多数個体目撃
 lex., 真庭郡新庄村土用, 31. V. 1981, 他に数個体目撃
 3exs., 川上郡川上町磐窟渓, 3. XI. 1981, ナラガシワのアリマキで目撃
 lex., 和気郡日生町鹿久居島小池浜, 17. X. 1982, 他に数個体目撃
 2exs., 赤磐郡吉井町北平山, 21. VII. 1983
 2exs., 新見市草間羅生門, 29. IV. 1984
 lex., 上房郡有漢町川関下, 4. VIII. 1984
 2exs., 久米郡旭町打木沢, 21. IV. 1985
 lex., 津山市金井, 5. V. 1985
 lex., 呂田郡阿波村小原, 11. VII. 1985, 他に多数個体目撃
 lex., 邑久郡邑久町敷井, 4. V. 1987
 lex., 岡山市三和安部倉ダム, 21. VI. 1987
 近藤光宏 (1991a) →lex., 高梁市臥牛山, 1. V. 1988
 重井博ほか2名 (1990) →2exs., 和気郡佐伯町田賀県自然保護センター, 25. IX. 1988
 3exs., 赤磐郡吉井町宗形神社, 8. VII. 1989
 lex., 都窪郡早島町, 6. V. 1990
 重井博ほか2名 (1996) (1998b) →lex., 倉敷市六口島, 3. XI. 1990
 lex., 英田郡西粟倉村若杉原生林, 25. XII. 1992
 重井博ほか2名 (1995) →lex., 総社市砂川公園, 29. IV. 1994
 重井博ほか2名 (1998a) →羽アリ 1♂ lex., 岡山市西大寺一宮安仁神社, 11. VI. 1995, 他に羽アリ数個体をクモの巣で目撃
 lex., 倉敷市児島由加山, 15. IV. 1997
 23. *Camponotus obscuripes* MAYR ムネアカオオアリ
 141例と記録件数が多いので、一部の郡市を除き、各郡市共1~2例を掲げるに止めた。本種は、主として県中部以北に分布が見られ、県南部では極めて稀である。
 1♀ (羽アリ), 新見市井倉, 3. V. 1959

lex., 倉敷市浅原, 17. IX. 1961, 重井博氏採集, 倉敷昆虫館所蔵
 2exs., 総社市延原, 5. V. 1975
 lex., 川上郡川上町穴門山神社, 11. V. 1975
 2exs., 苫田郡上齋原村恩原恩原川, 8 VI. 1975
 lex., 上房郡吉川吉川八幡神社, 24. IX. 1975
 lex., 真庭郡新庄村野土路, 6 VI. 1976
 重井博ほか3名 (1982) →lex., 真庭郡新庄村田浪毛無山, 26. VI. 1976
 lex., 英田郡東粟倉村後山, 25. VII. 1976
 lex., 苫田郡奥津町県立森林公园, 8. VIII. 1976
 1♀, 倉敷市玉島本所, 6. VI. 1979, 平田氏採集
 重井博ほか3名 (1982) →lex., 久米郡久米南町仏教寺, 9. IX. 1979, 重井博氏採集
 重井博ほか3名 (1982) →lex., 和気郡吉永町滝谷, 4. V. 1980
 重井博ほか3名 (1982) →lex., 御津郡御津町宇甘溪, 5. V. 1980, モミジの花
 lex., 御津郡建部町福渡友愛の丘, 12. VIII. 1980
 lex., 倉敷市玉島八島, 12. X. 1981, 目撃
 lex., 岡山市掛畠千升峰, 5. IX. 1982
 lex., 阿哲郡哲西町鯉が窪, 19. VI. 1983
 lex., 阿哲郡哲多町引無おもつは湿原, 19. VI. 1983, クリの花
 lex., 赤磐郡吉井町暮田, 3. VII. 1983
 2exs., 赤磐郡吉井町高田北平山, 21. VIII. 1983
 lex., 新見市草間羅生門, 29. IV. 1984
 多数個体, 井原市経ヶ丸, 20. VIII. 1984, 目撃
 lex., 苫田郡加茂町細池湿原, 9. VI. 1985
 lex., 津山市金井, 28. VII. 1985
 近藤光宏 (1991a) →2exs., 高梁市臥牛山, 1. V. 1988
 lex., 久米郡旭町泉水山, 29. V. 1988
 3exs., 赤磐郡吉井町宗形神社, 8. VII. 1989
 重井博ほか4名 (1997) →lex., 英田郡西粟倉村若杉原生林, 15. IX. 1991
 1♀, 和気郡佐伯町県自然保護センター, 23. VIII. 1993
 2exs., 勝田郡勝央町勝間田東吉田, 5. VI. 1995
 24. *Camponotus hemichlaena* YASUMATSU et BROWN
 ニシムネアカオオアリ
 (旧キュウシュウムネアカオオアリ)

本種の和名は、キュウシュウムネアカオオアリとされていたが、本州でも山口県、広島県に次いで岡山県でも記録されるようになり、ニシムネアカオオアリと改名されたものと思われる。県下で初めて確認された

のは1987年のことで、本種ではないかと気づいたのは採集者の山崎崇氏である。当時は本種の北限の記録として貴重な発見であった。なお、過去の標本を精査すれば、県下の初記録は今少し遡ることも考えられる。

lex., 阿哲郡哲多町奈良ノ木, 15. IX. 1987

lex., 上房郡賀陽町串ヶ谷, 8. VIII. 1987

lex., 上房郡賀陽町はるみの丘, -.-, 1987, 生藤佳郎氏採集

lex., 新見市草間羅生門, 28. VI. 1987, 山崎崇氏採集

lex., 井原市経ヶ丸, 27. VII. 1987, 山崎崇氏採集
近藤光宏 (1991a) → 2exs., 高梁市臥牛山, 1. V. 1988

2exs., 和気郡吉永町和意谷, 19. VI. 1989

lex., 真庭郡久世町大内原, 20. VIII. 1990

重井博ほか4名 (1997) → 1♀, 英田郡西栗倉村若杉原生林, 7. VII. 1992, 青野孝昭氏採集

2exs., 阿哲郡神郷町三室峠ナメラ谷, 11. VII. 1992

2exs., 上房郡賀陽町布郡, 29. VIII. 1992

3♀, 阿哲郡哲多町引無おもつば湿原, 5. VI. 1994

4exs., 真庭郡新庄村田浪, 14. VIII. 1994

2exs., 新見市草間羅生門, 1. VI. 1997

25. *Camponotus quadrimaculatus* FOREL
ヨツボシオオアリ

5exs., 都窪郡清音村黒田, 27. VIII. 1974, 村上陽三氏同定
近藤光宏 (1991b) → lex., 倉敷市児島由加山, 26. I. 1991, 青野孝昭氏採集

26. *Camponotus kiusiuensis* SANTSCHI ミカドオオアリ

2exs., 倉敷市中央2-16-14, 23. XI. 1962

1ex., 川上郡川上町穴門山神社, 11. V. 1975, 村上陽三氏同定

lex., 玉野市金甲山, 21. IX. 1975, 村上陽三氏同定

1ex., 倉敷市酒津八幡山, 13. IV. 1989, 青野孝昭氏採集

12exs. (羽アリを含む), 御津郡御津町中山, 17. IV. 1989, 青野孝昭氏採集

lex., 赤磐郡吉井町宗形神社, 8. VII. 1989

lex., 赤磐郡吉井町室原, 29. V. 1995

lex., 苫田郡奥津町奥津峠, 26. VI. 1995, 青野孝昭氏採集

lex., 倉敷市児島上木見, 17. VIII. 1996, 青野孝昭氏採集

lex., 岡山市津高ダイミ山, 9. XII. 1976, 青野孝昭氏採集

27. *Camponotus nipponicus* WHEELER ヒラズオオアリ

兵アリ8exs.15exs., 倉敷市連島山, 9. III. 1975

lex., 岡山市津高烏山, 31. V. 1997

28. *Polyrhachis lamellidens* F.SMITH トゲアリ
43例と記録件数が多いので、内20例のみを報告。
近藤光宏 (1976) → 3exs., 都窪郡清音村黒田, 8. IX. 1974

1♂, 赤磐郡瀬戸町塩納, 19. X. 1975, 村上陽三氏同定

lex., 苫田郡上齋原村県立森林公園, 8. VII. 1976

畔柳鎮ほか5名 (1980) → lex., 真庭郡落合町木山, 30. VII. 1978, 重井博氏採集

多数個体, 倉敷市山地日差山, 10. VI. 1979, ヤマモモの幹で目撃

lex., 井原市野上千手院, 24. VI. 1979, 他に多数個体目撃
重井博ほか3名 (1982) → lex., 久米郡久米南町仏教寺, 29. VII. 1979

2exs., 倉敷市児島由加山, 9. VII. 1979

多数個体, 御津郡建部町福渡友愛の丘, 12. VIII. 1980, 夜間アベマキの幹で目撃

2exs., 真庭郡八束村, 18. VII. 1982, 他に数個体をサクラの幹で目撃

1ex., 岡山市掛畠千升峠, 8. VII. 1982

5exs., 赤磐郡吉井町高田北平山, 21. VII. 1983, 他に多数個体目撃

2exs., 岡山市日応寺藤ヶ鳴湿原, 19. V. 1985, 他に多数個体目撃

1♂, 倉敷市玉島阿賀崎, 10. XII. 1985, 立原氏採集
近藤光宏 (1991a) → lex., 高梁市臥牛山, 20. VII. 1988, アベマキの幹

lex., 赤磐郡吉井町宗形神社, 8. VII. 1989

1ex., 上房郡賀陽町布郡, 14. VI. 1992, 青野孝昭氏採集

2exs., 真庭郡久世町大内原新池, 25. VI. 1994

1ex., 和気郡佐伯町田賀県自然保護センター, 17. VII. 1994, 他に多数個体目撃

3exs., 勝田郡勝央町岡, 11. VI. 1995, 青野孝昭氏採集

29. *Polyrhachis hippomanes* var. *moesta* EMERY
チクシトゲアリ?

1ex., 新見市草間羅生門, 21. X. 1984, 重井博氏採集

30. *Formica japonica* MOTSCHULSKY クロヤマアリ
324例と記録件数が多いので、一部の郡市を除き、各都市共1~2例を掲げるに止めた。

- lex., 苦田郡加茂町真瀬, 19. IV. 1964, 重井博氏採集, 倉敷昆虫館所蔵
- lex., 新見市市街地, 21. V. 1967, 矢野重明氏採集 1♂, 倉敷市玉島, 20. VI. 1975, 村上陽三氏同定 1♀, 倉敷市玉島, 23. VI. 1975, 村上陽三氏同定 2exs., 和気郡日生町鹿久居島, 31. VII. 1975 5exs., 笠岡市神島, 23. V. 1976 91exs., 倉敷市児島由加山板尾林道, 28. V. 1976, 農薬の空中散布で葉死
- lex., 阿哲郡大佐町伏谷, 6. VI. 1976 3exs., 倉敷市小黒田, 13. VI. 1976, 農薬の空中散布で葉死
- lex., 真庭郡勝山町神代, 26. VI. 1976 1ex., 岡山市日応寺十二本木山, 5. XI. 1978
畔柳鎮ほか5名(1980)→lex., 岡山市金山, 1. X. 1978, ヨウシュヤマゴボウ
多数個体, 上房郡賀陽町吉川八幡, 15. VII. 1979, クリのアリマキで採集
- lex., 後月郡芳井町日南, 17. VI. 1979, 重井博氏採集
重井博ほか3名(1982)→lex., 備前市閑谷, 24. VI. 1979, 重井博氏採集
重井博ほか3名(1982)→lex., 和気郡吉永町滝谷, 4. V. 1980
重井博ほか3名(1982)→lex., 御津郡御津町宇甘溪, 4. V. 1980 3exs., 真庭郡新庄村土用, 1. VI. 1980 1ex., 苦田郡上斎原村県立森林公園, 24. V. 1980 1ex., 岡山市上高田勝尾峰, 4. IV. 1982 1ex., 真庭郡八束村, 16. V. 1982 2exs., 和気郡日生町鹿久居島九艘泊, 17. X. 1982 1ex., 岡山市真星星神社, 17. IV. 1983 1ex., 阿哲郡哲西町鯉が瀬, 19. VI. 1983 1ex., 阿哲郡哲多町引無おもつは湿原, 19. VI. 1983 1ex., 赤磐郡吉井町菊ヶ峠, 3. VII. 1983, 他に多数個体目撃 4exs., 玉野市水口, 14. VIII. 1983, 他に多数個体目撃 2exs., 新見市草間羅生門, 29. IV. 1984 1ex., 上房郡北房町井殿鐘乳穴, 14. VIII. 1984 1ex., 久米郡旭町打木沢, 21. IV. 1985 1ex., 津山市金井, 21. IV. 1985 1ex., 苦田郡加茂町細池湿原, 16. VI. 1985 1ex., 倉敷市釜島, 26. VII. 1985 1ex., 邑久郡敷井, 7. VI. 1987
近藤光宏(1991a)→lex., 高梁市臥牛山, 3. IV. 1988, 他に数個体目撃
重井博ほか2名(1990)→lex., 和気郡佐伯町田賀県自然保護センター, 25. IX. 1988 1ex., 御津郡御津町中山, 28. V. 1989
重井博ほか2名(1996)(1998b)→lex., 笠岡市北木島, 30. VII. 1989
重井博ほか2名(1996)(1998b)→2exs., 倉敷市六口島, 3. XI. 1990
重井博ほか4名(1997)→lex., 英田郡西栗倉村若杉原生林, 15. IX. 1991 1ex., 赤磐郡熊山町大畑, 10. V. 1992
重井博ほか2名(1995)→lex., 総社市砂川公園, 29. IV. 1994 1ex., 勝田郡勝央町勝間田小中, 3. IX. 1994 2exs., 苦田郡奥津町奥津峠, 23. V. 1995 1ex., 倉敷市玉島円通寺, 20. IV. 1997, 他に多数個体目撃 1ex., 岡山市津高鳥山, 29. IV. 1997 1ex., 岡山市築港元町市場, 19. V. 1997 31. *Formica fukaii* WHEELER ツノアカヤマアリ
日本蟻類研究会編(1991)によれば、「赤色型のヤマアリの中では最も西方まで分布しており、中国地方にも各地で記録がある。最西の記録は広島県と鳥取県である。」とある。 3exs., 真庭郡川上村内海丸, 16. V. 1982, 重井博氏採集 11exs., 真庭郡八束村, 18. VII. 1982 3exs., 真庭郡八束村, 29. VII. 1982, 他に多数個体をヤマナラシのアブラムシで目撃 32. *Paratrechina flavipes* (F.SMITH) アメイロアリ 1ex., 新見市市街地, 21. V. 1967, 矢野重明氏採集 4exs., 総社市草田, 15. VI. 1975, 村上陽三氏同定 15exs., 倉敷市中央2丁目, 29. VII. 1975, 村上陽三氏同定
近藤光宏(1981a)→4exs., 倉敷市藤戸町, 7. VIII. 1979, 内2exs. 村上陽三氏同定 4exs., 高梁市臥牛山, 7. V. 1989 33. *Paratrechina sakurae* (Ito) サクラアリ 7exs., 真庭郡勝山町神代, 26. VI. 1976, 内2exs. 村上陽三氏同定 34. *Lasius umbratus* (NYLANDER) アメイロケアリ 1ex., 倉敷市酒津八幡山, 29. VI. 1989, 青野孝昭氏採集 35. *Lasius fuliginosus* (LATREILLE) クロクサアリ
既記録24例中17例を掲げる。 24exs., 上房郡賀陽町仕方畠の松, 20. IV. 1975, 村

上陽三氏同定

- 12exs., 川上郡川上町地頭, 11. V. 1975
 10exs., 真庭郡新庄村土用, 19. IX. 1976
 近藤光宏 (1981) →多数個体, 倉敷市福田町川城, 1. VI. 1979, クリのアリマキで目撃
 重井博ほか3名 (1982) →1ex., 岡山市足守大井, 16. V. 1979, 他に多数個体がガの幼虫の死骸に集まるのを目撃
 6exs., 上房郡賀陽町吉川八幡, 29. VII. 1979, 他に行列目撃
 重井博ほか3名 (1982) →1ex., 久米郡久米南町仏教寺, 29. VII. 1979
 重井博ほか3名 (1982) →6exs., 和気郡吉永町滝谷, 17. VIII. 1980, 他に行列並びにゴミムシの死骸に集まるのを目撃
 6exs., 岡田郡上齋原村県立森林公園, 19. VII. 1981, 他に行列目撃
 3exs., 新見市草間羅生門, 22. VII. 1984
 9exs., 苫田郡上齋原村恩原川, 1. VI. 1986
 近藤光宏 (1991a) →10exs., 高梁市臥牛山, 16. VII. 1989
 重井博ほか2名 (1996) (1998b) →2exs., 笠岡市北木島, 6. V. 1990
 9exs., 真庭郡久世町中原, 5. VIII. 1990, カヤのアラムシ?
 10exs., 苫田郡奥津町奥津峠, 23. V. 1995
 3exs., 勝田郡勝央町勝間田小中, 19. VI. 1995, 他に行列目撃
 営巣, 倉敷市児島由加山蓮台寺, 6. VIII. 1996, 目撃
 36. *Lasius niger* (LINNAEUS) トビイロケアリ
 84例と記録件数が多いので、一部の郡市を除き、各郡市共1~2例を掲げるに止めた。
 26exs., 上房郡賀陽町大和山, 20. IV. 1975, 村上陽三氏同定
 2exs., 苫田郡上齋原村恩原湖, 8. VI. 1975, 村上陽三氏同定
 11exs., 積善郡草田, 15. VI. 1975, 村上陽三氏同定
 1ex., 新見市草間, 27. VII. 1975, 村上陽三氏同定
 2exs., 児島郡灘崎町タコラ山, 28. IX. 1975
 近藤光宏 (1991a) →11exs., 高梁市臥牛山, 21. III. 1976, 村上陽三氏同定, 他にケヤキの幹でおよそ5mの蟻道を目撃
 2exs., 真庭郡川上村蒜山蛇ヶ丸, 27. VI. 1976, 村上陽三氏同定
 2exs., 真庭郡新庄村土用, 19. IX. 1976
 1ex., 井原市野上千手院, 17. VI. 1979, 重井博氏採集

集

- 近藤光宏 (1981) →5exs., 倉敷市上浦田, 17. VI. 1979, クリのアリマキ
 5exs., 後月郡芳井町日南, 28. VII. 1979, 内2exs. 村上陽三氏同定, 他に多数個体目撃
 重井博ほか3名 (1982) →1ex., 久米郡久米南町仏教寺, 29. VII. 1979
 3exs., 岡山市西片岡久々井, 6. IV. 1980, 重井博氏採集
 近藤光宏 (1982) →5exs., 倉敷市玉島富咲, 19. IV. 1980, アカマツの枯木中
 3exs., 岡山市大内田, 27. IV. 1980
 重井博ほか3名 (1982) →1ex., 和気郡吉永町滝谷, 4. V. 1980
 1ex., 苫田郡上齋原村県立森林公園, 4. V. 1981
 近藤光宏 (1983) →3exs., 倉敷市西阿知高梁川河川敷, 5. IX. 1981
 1ex., 真庭郡川上村蒜山内海丸, 16. V. 1982, 重井博氏採集
 2exs., 岡山市掛畠千升岬, 20. VI. 1982
 12exs., 都窪郡清音村川辺高梁川河川敷, 19. VIII. 1982, 他に多数個体並びにコロニーを目撃
 2exs., 児島郡灘崎町常山, 31. X. 1982, 他に多数個体目撃
 12exs., 阿哲郡哲西町鯉が窪, 19. VI. 1983
 3exs., 和気郡日生町鹿久居島小池浜, 10. VII. 1983
 青野孝昭・近藤光宏 (1983) →1ex., 倉敷市鶴形山, 30. VII. 1983
 3exs., 玉野市水口, 14. VIII. 1983
 3exs., 岡山市日応寺藤ヶ鳴湿原, 19. V. 1985
 1ex., 苫田郡阿波村黒岩高原, 15. VI. 1986, 重井博氏採集
 1ex., 久米郡旭町大谷川, 20. X. 1986, 佐藤國康氏採集
 1ex., 阿哲郡神郷町新在家, 10. V. 1987
 1ex., 邑久郡敷井通山, 6. V. 1987, 青野孝昭氏採集
 近藤光宏 (1991b) →4exs., 倉敷市児島由加白尾, 20. V. 1990
 重井博ほか2名 (1996) (1998b) →3exs., 倉敷市六口島, 4. V. 1991
 重井博ほか4名 (1997) →4exs., 英田郡西栗倉村若杉原生林, 7. VII. 1992
 3exs., 和気郡佐伯町田賀, 9. VI. 1993, ハゼのアラムシ
 1ex., 真庭郡中和村大原湿原, 11. VI. 1994

重井博ほか2名 (1998a) →3exs., 岡山市西大寺一宮
安仁神社, 11. VI. 1995
2exs., 赤磐郡吉井町周匝吉井川河川敷, 27. IX.
1995, 青野孝昭氏採集, ベイトトラップ
2exs., 岡山市築港緑町阿部池, 21. IV. 1997
3exs., 岡山市賞田, 23. VI. 1997

なお, 以上その他に村上陽三氏同定による
Crematogaster sp. (シリアゲアリの一種)
Camponotus sp. (オオアリの一種)
Camponotus sp. (オオアリの一種)
Lasius sp. (ケアリの一種)
Lasius sp. (ケアリの一種)
Lasius sp. (ケアリの一種)
Lasius sp. (ケアリの一種)
岡本啓氏同定による
Chthonolasius sp. (ケアリの一種)
が県内から記録されている。

引用文献

- 青野孝昭, 1986. 街中の緑地鶴形山の昆虫, 倉敷市立自然史博物館研究報告 I, pp.73. 倉敷市立自然史博物館, 倉敷.
- 青野孝昭・近藤光宏・重井博, 1988. 倉敷川水系の自然環境に関する研究倉敷川水系自然環境調査報告書, pp.155. 倉敷の自然をまもる会, 倉敷.
- 畔柳鎮・神野力・光野千春・千葉喬三・松本邦夫・重井博, 1980. 自然保護基礎調査報告書金山地域・両尾山地域・八木山地域・猿掛地域・無明谷地域・木山地域・真木山地域, pp.92. 岡山県環境部自然保護課, 岡山.
- 小暮保, 1971. 日本の蟻, pp.62. 高崎.
- 近藤光宏, 1976. 倉敷の自然福山山系・林熊野神社山系・下津井城山, pp.119-124, pp.156-157, pp.175-177. 倉敷市企画部, 倉敷.
- 近藤光宏, 1978. 倉敷の自然鶴ヶ辻山系, pp.84-89. 倉敷市衛生局環境部, 倉敷.
- 近藤光宏, 1980. 倉敷の自然竜王山山系, pp.100-104. 倉敷市衛生局環境部, 倉敷.
- 近藤光宏, 1981. 倉敷の自然種松山山系, pp.51-62. 倉敷市衛生局環境部, 倉敷.
- 近藤光宏, 1982. 倉敷の自然弥高山山系, pp.63-75. 倉敷市衛生局環境部, 倉敷.
- 近藤光宏, 1983. 倉敷の自然高梁川河川敷, pp.27-40. 倉敷市衛生局環境部, 倉敷.
- 近藤光宏, 1991a. 高梁市臥牛山昆虫目録, pp.1-11. 高梁市教育委員会, 高梁.

近藤光宏, 1991b. 倉敷市由加山系の自然南東部地域 (特にC地区), pp.115-120. 倉敷の自然をまもる会, 倉敷.

重井博・青野孝昭・宇野弘之・近藤光宏, 1982. 自然保護基礎調査報告書自然保護地域候補地調査結果 (大井上山など10の地域), pp.238. 岡山県環境保健部自然保護課, 岡山.

重井博・青野孝昭・近藤光宏, 1990. 岡山県佐伯町田尻大池周辺の自然, pp.66-89. 岡山県環境保健部自然保護課, 岡山.

重井博・青野孝昭・近藤光宏, 1995. 砂川公園周辺部の自然環境調査報告書, pp.19-54. 総社市, 総社.

重井博・青野孝昭・近藤光宏, 1996. 自然保護基礎調査報告書鹿久居島・北木島・六口島, pp.59-103, pp.159-184, pp.219-250. 岡山県地域振興部自然保護課, 岡山.

重井博・青野孝昭・近藤光宏・中村具見・渡辺和夫, 1997. 自然保護基礎調査報告書若杉原生林生物学調査, pp.35-107. 岡山県地域振興部環境保全局自然保護課, 岡山.

重井博・青野孝昭・近藤光宏, 1998a. 自然保護基礎調査報告書安仁神社郷土自然保護地域, pp.29-52. 岡山県地域振興部環境保全局自然保護課, 岡山.

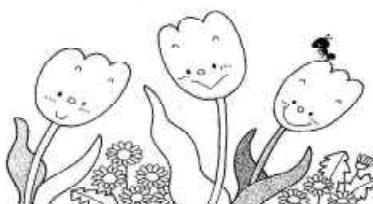
重井博・青野孝昭・近藤光宏, 1998b. 自然保護基礎調査報告書鹿久居島・北木島・六口島, pp.57-92, pp.144-166, pp.197-223. 岡山県地域振興部環境保全局自然保護課, 岡山.

日本蟻類研究会編, 1989. 日本産アリ類の検索と解説 (I) ハリアリ亜科, クビレハリアリ亜科, クシフタフシアリ亜科, サスライアリ亜科, ムカシアリ亜科, pp.42. 日本蟻類研究会, 東京.

日本蟻類研究会編, 1991. 日本産アリ類の検索と解説 (II) カタアリ亜科, ヤマアリ亜科, pp.56. 日本蟻類研究会, 東京.

日本蟻類研究会編, 1992. 日本産アリ類の検索と解説 (III) フタフシアリ亜科, ムカシアリ亜科 (補追), pp.94. 日本蟻類研究会, 東京.

平嶋義宏, 1989. 日本昆虫総目録, ハチ目, pp.541-692. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター, 北九州.



岡山県内産ベッコウハナアブ（属）5種について

近藤光宏*

ベッコウハナアブの仲間 (*Volucella*属) は、平嶋義宏 (1989) によれば日本産として7種が記載されている。このうち、岡山県からはこれまでにベッコウハナアブ、ニトベベッコウハナアブ、クロベッコウハナアブ、シロスジベッコウハナアブ、スズキベッコウハナアブの5種が確認されている。

ちなみに、他県の分布については、現在筆者の手元に富山、三重、広島、佐賀、熊本など5県の情報があり、まとめたものが別表である。これら5県と比較する限りにおいては、県内産5種の記録数は充実していると言えよう。しかしながら、分布態様は様々で、ベッコウハナアブ、クロベッコウハナアブ、シロスジベッコウハナアブのように県下全域に広く分布し、記録地のかなり多いものから、ニトベベッコウハナアブのように既記録地の少ないもの、更にはスズキベッコウハナアブのように過去にわずか2個体しか記録されていないものもある。

以下に、既発表のもの、手元に所蔵している筆者採取によるもの、他者より譲り受けたもの、ここで新たに情報を寄せて頂いたものなどを取りまとめて報告しておきたい。今後の調査の参考にして頂ければ幸いである。

なお、生態に関する内容については、大原賢二 (1984) に従った。採集者名を省略してあるものは、すべて筆者の採集品である。また、敬称は紙面の都合で割愛させて頂いた。

1. *Volucella jeddona* BIGOT ベッコウハナアブ
1ex., 青野孝昭 (1957); 1ex., 青野孝昭 (1957); 1♀, 新見市金谷, 12.VI.1966, 矢野重明; 1♂, 阿哲郡哲多町, 19.V.1968, 矢野重明; 1♂, 倉敷市由加山, 18.V.1975; 1♀, 倉敷市富峰, 5.VI.1976, 三宅宗夫; 1♂, 倉敷市御前道, 29.IV.1977; 1♀, 倉敷市由加山, 25.V.1977, 宇野弘之; 1♀, 倉敷市御前道, 29.V.1977, (写真1); 2♀, 高梁市滝山, 12.V.1985, 竹村七恵; 1♂, 岡山市藤ヶ鳴, 13.V.1985, 青野孝昭; 1♂, 高梁市臥牛

山, 10.V.1989, 青野孝昭; 1♂, 佐伯町田賀, 28.V.1989, 青野孝昭; 1♂, 都窪郡早島町, 20.VII.1990, 青野孝昭; 1♂, 高梁市橋井, 21.VI.1991, 野嶋宏一; 1♀, 小田郡矢掛町下高末, 1.VI.1991, 野嶋宏一; 1ex., 倉敷市由加山, 21.V.1992; 2♀, 上房郡賀陽町吉川, 27.V.1992, 斎藤光男; 1♂, 津山市綾部, 12.V.1993, 斎藤光男; 1♀, 和気郡佐伯町田賀, 16.V.1994, 青野孝昭; 1♀, 和気郡佐伯町田賀, 22.V.1994; 1♀, 苫田郡奥津町奥津峡, 12.VI.1995; 1♂, 新見市草間羅生門, 2.VI.1996

なお、倉敷市由加山における宇野弘之氏の記録は、農薬の空中散布後、落下死していた個体を採取したもの、また、都窪郡早島町における青野孝昭氏の記録は、ライトトラップによって採取したものである。

ベッコウハナアブの仲間の幼虫はスズメバチ類の巣の中に寄生（と言っても、実際には巣の下の土の中が主な生活場所。そこでハチの餌の残り物や死んだハチの幼虫・蛹などを食べている）することは知られているが、ベッコウハナアブがスズメバチ類のどの種に寄生するかは、まだ分かっていない。

体長：17~20mm。分布：北海道、本州、四国、九州；ソ連極東部。成虫の出現：4月~8月。

2. *Volucella linearis* WALKER

ニトベベッコウハナアブ

1♂, 倉敷市上東, 3.VII.1969, 渡辺昭彦, 倉敷昆虫館所蔵; 1♀, 英田郡若杉崎, 25.VII.1976, ノリウツギの花で採集; 1ex., 苫田郡立森林公園, 28.VII.1978; 1♀, 英田郡英田町真木山, 17.IX.1978, 重井博; 4♂, 真庭郡新庄村土用, 9.VIII.1980, リョウブの花で採集(写真2); 1♀, 赤磐郡赤坂町多賀, 21.VI.1993, 斎藤光男

ニトベベッコウハナアブの幼虫は、クロスズメバチ・ツヤクロスズメバチの巣に寄生すること。

体長：19~21mm。分布：本州、四国、九州；旧北区。成虫の出現：6月~8月。

3. *Volucella nigricans* COQUILLET

クロベッコウハナアブ

1♂, 浅口郡照山, 6.VIII.1968, 赤枝一弘, 倉敷昆虫館所蔵; 1♂, 倉敷市高島居山, 15.VI.1969,

* 〒710-0046 倉敷市中央2-6-1,

倉敷市立自然史博物館

渡辺昭彦, 倉敷昆虫館所蔵; 1♀, 上房郡賀陽町吉川鳴滝, 24. IX. 1975; 1♀, 児島郡灘崎町タコラ山, 28. IX. 1975, 三宅宗夫; 1♀, 倉敷市小黒田, 13. VI. 1976; 2♂, 倉敷市御前道, 29. V. 1977; 1♂, 倉敷市児島柳田小原池, 5. VI. 1980, 重井博; 1♂, 倉敷市御前道, 5・VI. 1980, 重井博; 1♂, 岡山市西片岡久々井, 13. VII. 1980; 1ex., 真庭郡八束村, 6. VI. 1982; 1♀, 岡山市高尾山, 17. VII. 1988 (写真3); 1♂, 岡山市富吉, 14. VI. 1992; 1♂, 津市山綾部, 31. VIII. 1992, 斎藤光男; 1♀, 上房郡賀陽町吉川, 21. VI. 1991, 野嶋宏一; 1♂, 井原市山王, 16. VI. 1993, 斎藤光男

倉敷市小黒田の記録は、農薬の空中散布後、落下死していた個体を採取。岡山市西片岡久々井では、マサキの花で、また、岡山市富吉では、ネズミモチの花でそれぞれ採取した。

クロベッコウハナアブの幼虫は、クロスズメバチの巣に寄生すること。

体長: 19~21mm。分布: 本州, 四国, 九州; 朝鮮, 台湾。成虫の出現: 5月~8月。

4. *Volucella pellucens tabanoides* MOTSCHULSKY

シロスジベッコウハナアブ
1ex., 青野孝昭 (1957); 1♀, 阿哲郡哲西町鯉が窪, 24. VII. 1975, 青野孝昭; 1♂, 真庭郡新庄村毛無山, 26. VI. 1976. 三宅宗夫; 1♂1♀, 真庭郡新庄村毛無山, 26. VI. 1976 (写真4); 2♂1♀, 苦田郡県立森林公園, 8. VIII. 1976; 1♀, 倉敷市児島由加山, 30. VIII. 1976, 三宅宗夫; 2♂1♀, 真庭郡新庄村土用, 18. VI. 1978; 1♂, 真庭郡新庄村土用, 5. VI. 1983; 1♂, 真庭郡新庄村土用, 4. IX. 1983; 1♀, 真庭郡新庄村土用, 16. IX. 1984; 1ex., 真庭郡新庄村土用, 28. VI. 1987; 1♀, 真庭郡新庄村毛無山, 30. V. 1994, 斎藤光男; 1♀, 真庭郡新庄村毛無山, 10. VII. 1994

他に小林一貴氏採集による苦田郡県立森林公園での

記録を確認しているが、採集年月日不明のためデータとしては取り上げなかった。

シロスジベッコウハナアブの幼虫は、クロスズメバチ、ツヤクロスズメバチの巣に寄生すること。

体長: 15~18mm。分布: 北海道, 本州, 四国; シベリア, ソ連極東部, 中国, 朝鮮半島, モンゴル。成虫の出現: 6月~10月。

5. *Volucella suzukii* MATSUMURA

スズキベッコウハナアブ
1ex., 小野洋 (1954); 1♂, 都窪郡黒田, 3. VIII. 1975 (写真5) (体長実測個体)

スズキベッコウハナアブの幼虫は、キイロスズメバチの巣に寄生すること。

体長: 約16mm (上記個体の実測値)。分布: 本州。

おわりに、本稿をまとめに当たりその趣旨をご理解の上、貴重な記録を快く提供された斎藤光男・野嶋宏一両氏に、また、早くから標本をお譲り下さり、発表の機会をお与え頂いた青野孝昭・赤枝一弘・宇野弘之・重井博・竹村七恵・三宅宗夫・矢野重明・渡辺昭彦の諸氏に対し衷心より御礼申し上げる。なお、すでに故人となられた重井博・赤枝一弘両氏に対しましては、発表が大変遅くなりましたがことをお詫びいたしますと共に、心からご冥福をお祈り申し上げたい。

引用文献

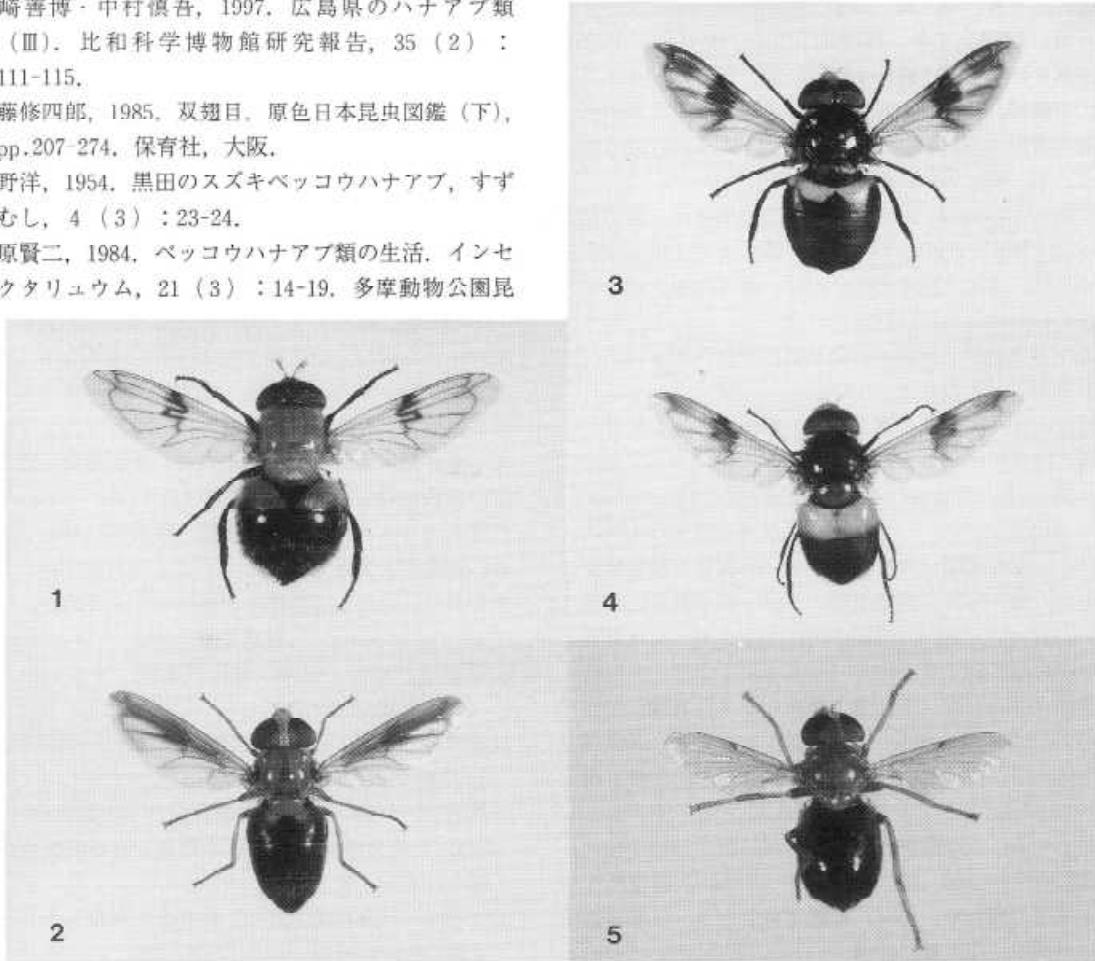
- 青野孝昭, 1957. 高滝山付近採集記. すずむし, 7 (2): 33-35.
 枝重忠夫, 1981. ハナアブ科. 原色昆虫大図鑑III, pp.207-218. 北隆館, 東京.
 平嶋義宏, 1989. 日本昆虫総目録. ハエ目, pp.699-873. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター, 北九州.
 池崎善博・市場利哉, 1995. 佐賀県で採集したハナアブ類. 佐賀の昆虫, (29): 661-668.
 池崎善博・河北均, 1996. 三重県のハナアブ (1).

別表 ベッコウハナアブ属の岡山県並びに他県における分布情報

	富山県	三重県	広島県	佐賀県	熊本県	岡山県
ベッコウハナアブ	1♂と2♀の2件	2件	1♀の1件		11件	22件
ニトベベッコウハナアブ						6件
クロベッコウハナアブ	1♂の1件			2♂の1件	1♂と♂の2件	14件
シロスジベッコウハナアブ	1♂と1♀の2件	3件	1♂と1♀の2件	1♂と1♀の2件	1♂と1♂1♀の2件	13件
スズキベッコウハナアブ						2件

- ひらくら, 40 (4) : 267-274.
 池崎善博・根来尚, 1997. 富山県のハナアブ (1).
 富山市科学文化センター研究報告, (20) : 29-33.
 池崎善博・中村慎吾, 1996. 広島県のハナアブ類
 (II). 比和科学博物館研究報告, 34 (3) :
 211-213.
 池崎善博・中村慎吾, 1997. 広島県のハナアブ類
 (III). 比和科学博物館研究報告, 35 (2) :
 111-115.
 伊藤修四郎, 1985. 双翅目. 原色日本昆虫図鑑 (下),
 pp.207-274. 保育社, 大阪.
 小野洋, 1954. 黒田のスズキベッコウハナアブ, すず
 むし, 4 (3) : 23-24.
 大原賢二, 1984. ベッコウハナアブ類の生活. インセ
 クタリュウム, 21 (3) : 14-19. 多摩動物公園昆

- 虫愛好会, 東京.
 大塚勲, 1994. 熊本県のハナアブ (2). 熊本昆虫同
 好会報, 40 (1) : 1-11.
 篠永哲, 1988. 学研生物図鑑昆虫III, p.255, 277,
 340. 学習研究社, 東京.



おとしみ

臥牛山でのミツオホシハナノミの記録

藤 谷 美 文

山地 (1997) によると、岡山県下でのミツオホシハナノミの採集例はあまり多くなく、これまでに数例が知られるのみである。臥牛山を訪れた際、息子が当地では記録されていない本種を探集したので報告する。

Hoshihananomia mitsuoi NAKANE et NOMURA

ミツオホシハナノミ

1♀, 高梁市臥牛山, 26. VII. 1998, 藤谷宗弘採

集, 神奈川県立生命の星・地球博物館保管

採集地は松山城への登城路の中間付近で、路傍の石上に静止していたのを採集した。

なお、本種の同定は倉敷市立自然史博物館の奥島氏の紹介で神奈川県立生命の星・地球博物館の高桑正敏氏にお願いいたしました。厚くお礼申し上げます。

引用文献

山地治, 1997. 岡山県産昆虫目録. 鞘翅(甲虫)目.

534pp., ウエスコ, 岡山,

(〒701-1143 岡山市吉宗137)

岡山県産ミズムシ類の記録

藤 井 陽 子*

ミズムシ類（カメムシ目Heteroptera, ミズムシ科Corixidae）は、池沼や水たまりの止水域、または河川の流水域でよく見られる水生半翅類であり、小さいものは2mm弱、大きいものは12mmにも達する。ミズムシ科の中でも大型の*Hesperocorixa*属の種、ミズムシ、オオミズムシ、ナガミズムシの記録は全国的に少なく、レッドデータブック²⁾では希少種に選定されている。幸い、岡山県や兵庫県、その周辺地域では採集記録もあり、生息個体数も多いと考えられる。

ミズムシ科昆虫は日本から25種の生息が確認されているが、それらの同定は一般に難しく、今まで正確に報告されているものは少ない。これまで岡山県のミズムシ類についての主な報告は原田裕康氏¹⁾、倉敷市立自然史博物館³⁾、松本邦夫氏ら⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾、佐藤國康氏⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾、重井博氏ら¹⁴⁾¹⁵⁾、山地治氏¹⁶⁾¹⁷⁾によるものなどで、8種が知られている。筆者は最近ミズムシ科昆虫の標本をみる機会が何度かあり、ある程度データもまとまつたのでここに報告する。採集者名は青野孝昭-A、板倉ゆか-I、小野洋-O、近藤光宏-K、野嶋宏一-N、山地治-Yと略記した。また、文中の(LT)はライトトラップを示す。なお、山地氏による2つの報告¹⁶⁾¹⁷⁾についても見直し、変更した分についてはコメントを記している。学名の前の数字は写真番号を兼ねる。

報告にあたり、同定、ご助言をいただいた埼玉大学教育学部生物学教室の林正美博士に心からお礼を申し上げる。また、貴重な標本を貸して下さり、記録の発表を許された青野孝昭氏、小野洋氏、近藤光宏氏、野嶋宏一氏、山地治氏に厚くお礼申し上げる。

Corixinae ミズムシ亜科

1. *Hesperocorixa distantii* (KIRKALDY)
ホッケミズムシ
倉敷市鷺羽山、1♂1♀、23. XII. 1984, K
倉敷市水江中州小、1♂1♀、8. VI. 1994, I
日生町鹿久居島小池浜、2♀、24. IV. 1983, K
総社市長砂¹⁶⁾、1♂、14. IX. 1985, Y
岡山市富吉、1♀、2. VII. 1992 (LT), A

ミズムシ *H. distantii* (KIRKALDY) の東北以南に分布する亜種で、かつては普通にみられたが、現在では非常に少なくなっている。

2. *Hesperocorixa kolthoffi* (LUNDBLAD) オオミズムシ
賀陽町月原¹⁶⁾、3♀、11. VII. 1987, Y
笠岡市走出: 2♂1♀、28. IV. 1994, N; 3♂2♀、7. IV. 1994, N

新見市草間、1♂2♀、28. IV. 1996, K
前種に似るが、体が全体的に太くて丸い印象を受ける。本州(西部)と九州に分布するが、产地はかなり局所的で個体数は少ない。

3. *Hesperocorixa mandshurica* (JACZEWSKI)
ナガミズムシ
総社市久代、2♂、17. VI. 1993 (LT), N
赤坂町多賀: 1♀、21. VI. 1993 (LT), N; 2♂3♀、23. VIII. 1993 (LT), N

瀬戸町塩納、1♀、9. IX. 1994 (LT), A
前2種と比べて体は細長く、識別は容易である。
近畿地方以西の西日本から局所的に知られている。

4. *Sigara maikoenensis* (MATSUMURA)
アサヒナコミズムシ
新庄村土用、1♀、14. VII. 1982 (LT), A
倉敷市鷺羽山、2♀、23. XII. 1984, K
倉敷市玉島柏台¹⁶⁾、1♀、19. VII. 1986, Y (コミズムシと同定)

倉敷市水江中州小、2♀、1. VI. 1993, K
備中町越山¹⁶⁾、1♀、26. IV. 1986, Y (コミズムシと同定)
総社市総社大橋左岸¹⁶⁾、1♂、17. V. 1986, Y
(コミズムシと同定)

- 奈義町那岐池付近¹⁶⁾、2♂1♀、21. VII. 1986, Y
(コミズムシと同定)
赤坂町梅谷、1♀、3. VI. 1990, Y
長船町磯上、1♀、9. VI. 1991, Y
岡山市中島(百間川)、1♀、18. IV. 1992, Y

*Sigara*属には近似種が多く、同定は難しい。♂の顔面は凹み、種により差がある。本種の♂は後述のエサキコミズムシ *S. septemlineata* (PAIVA) ほど顔面は凹まず、腹部第6背板上に瀧状器がない。♀の第8腹節の腹側板内縁基部には鉤状の突起があ

* 〒700-0025 岡山市寿町10-23-202

る⁸⁾。また、前胸背の黒色横帯はしばしば細くなることがある。北海道、本州、九州に分布する。

5. *Sigara nigroventralis* (MATSUMURA)

ハラグロコミズムシ

倉敷市児島白尾磨, 1♀, 8. XI. 1990, O

♂は前脚跗節が偏五角形であるため、近似種と区別できる。腹部腹面が黒くても本種とは限らないので、同定する際には注意が必要である。徳之島以北に分布する。

6. *Sigara septemlineata* (PAIVA) エサキコミズムシ

日生町鹿久居島小池浜, 1♂1♀, 10. VII. 1983, K
御津町上伊田¹⁶⁾, 2♂2♀, 28. IX. 1985, Y (コ

ミズムシと同定)

高梁市備中川面¹⁶⁾, 2♂2♀, 1. II. 1986, Y
(コミズムシと同定)

賀陽町月原, 1♂1♀, 18. VII. 1986, Y

勝北町大吉¹⁶⁾, 1♂1♀, 21. VIII. 1986, Y (コミズムシと同定)

倉敷市粒江七ツ池, 2♂, 19. IV. 1987, K

岡山市久々井, 2♀, 30. VI. 1991, Y

中和村大原, 1♀, 11. VI. 1994, K

総社市砂川公園, 1♂5♀, 23. VII. 1994, K

英田郡湯郷ダム, 1♂1♀, 19. VI. 1995, K

吉井町塩木, 1♀, 27. VII. 1995 (LT), A

♂の顔面は広く顎著に凹み、腹部第6背板上には濾状器がある。本州以南の各地に普通である。

7. *Sigara substriata* (UHLER) コミズムシ

総社市総社大橋左岸, 1♂, 17. V. 1986, Y

奈義町那岐池付近¹⁶⁾, 1♂, 21. VII. 1986, Y

岡山市古都宿¹⁶⁾, 1♂, 9. X. 1985, Y

岡山市中島(百間川): 1♂, 28. IV. 1991, Y¹⁷⁾ ;

2♀, 4. V. 1991, Y¹⁷⁾ ; 4♂2♀, 18. IV.

1992, Y

♂の顔面中央部はやや凹み、腹部第6背板上には

濾状器を欠く。体は本属の中ではやや大きめである。

北海道から九州にかけて分布する。

8. *Xenocorixa vittipennis* (HORVATH) ミヤケミズムシ

岡山市古都宿¹⁶⁾, 1♂, 9. X. 1985, Y

赤坂町多賀, 3♂, 23. VIII. 1993, N

中型のミズムシで個体数は多いといわれるが、产地は限られる。本州、九州に分布する。

Cymatiainae ミヅナシミズムシ亜科

9. *Cymatia apprens* (DISTANT) ミヅナシミズムシ

倉敷市児島由加台ノ池, 1♂, 12. XII. 1990, O

岡山市中島(百間川)¹⁶⁾, 1♂1♀, 28. IV. 1991,
Y (コミズムシと同定)

*Sigara*属と比べ体が細長く、口吻の表面に横溝を欠くこと、前脚跗節が細い鎌状になることで他種と容易に識別できる。本州、九州に分布する。

Micronectinae チビミズムシ亜科

10. *Micronecta guttata* MATSUMURA コチビミズムシ

岡山市大原橋(旭川)¹⁶⁾, 1ex., 16. VI. 1987, Y

岡山市中牧(旭川)¹⁶⁾, 2exs., 29. VIII. 1987, Y

岡山市竹田(旭川), 2exs., 8. VII. 1989, Y

流水環境で採集される。体長は2mm弱と非常に小さい。本州、四国、九州に分布する。

11. *Micronecta sedula* HORVATH チビミズムシ

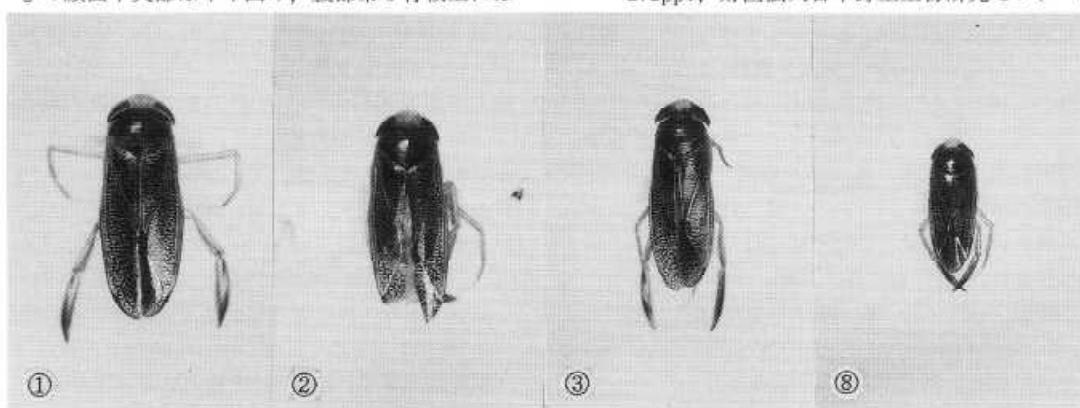
岡山市松新町¹⁶⁾, 1ex., 26. X. 1985, Y

岡山市藤ヶ鳴湿原: 1ex., 2. V. 1987, Y¹⁶⁾ ;
1ex., 19. V. 1987, Y

前種と異なり、止水環境で採集される。本州と九州に分布する。

引用文献

- 1) 原田裕康, 1982. 岡山県中南部における未記録の昆虫. すずむし, (118): 57-60.
- 2) 環境庁編, 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- (無脊椎動物編). 272pp., 財団法人日本野生生物研究センター.



- 3) 倉敷市立自然史博物館, 1994. 倉敷市生物目録. 254pp., 株式会社玉島活版所.
- 4) 松本邦夫・佐藤國康・益田芳樹・大野倫子・泰山浩司・高橋洋子・吉岡良恵, 1983. 第2章2. 1) 動物(昆虫を除く). 自然保護基礎調査報告書-湖沼・湿地地域生物学調査結果- (岡山県立森林公園), pp.44-73.
- 5) 松本邦夫・佐藤國康・益田芳樹・大野倫子・泰山浩司・高橋洋子・吉岡良恵, 1984. 付表動物目録. 自然保護基礎調査報告書-湖沼・湿地地域生物学調査結果, pp.58-63.
- 6) 松本邦夫・佐藤國康・益田芳樹・泰山浩司・大野倫子・吉岡良恵・井上雅恵, 1985. 第1章III1. 昆虫を除く動物. 自然保護基礎調査報告書-湖沼・湿地地域生物学調査結果-, pp.37-43.
- 7) 松本邦夫・佐藤國康・益田芳樹・泰山浩司・大野倫子・吉岡良恵・井上雅恵, 1985. 第2章III1. 昆虫を除く動物. 自然保護基礎調査報告書-湖沼・湿地地域生物学調査結果-, pp.65-70.
- 8) 宮本正一, 1980. 日本産ミズムシ亜科の覚え書き. *Rostria*, (33):347-354.
- 9) 佐藤國康, 1990. 酒津八幡山周辺地域の動物. 倉敷の自然-酒津八幡山周辺地域-, pp.49-90.
- 10) 佐藤國康, 1991. 倉敷市由加山系南東部地域の生動物. 倉敷市由加山系の自然-南東部地域(特にC地区)-, pp.37-109.
- 11) 佐藤國康・益田芳樹・泰山浩司・大野倫子・吉岡良恵・井上雅恵, 1983. 第1章III1. 昆虫を除く動物. 自然保護基礎調査報告書-昭和60年度湖沼・湿地地域生物学調査結果-, pp.36-50.
- 12) 佐藤國康・益田芳樹・泰山浩司・大野倫子・吉岡良恵・井上雅恵, 1983. 第2章III1. 昆虫を除く動物. 自然保護基礎調査報告書-昭和60年度湖沼・湿地地域生物学調査結果-, pp.76-90.
- 13) 佐藤國康・益田芳樹・泰山浩司・大野倫子・井上雅恵, 1990. 佐伯町田尻大池周辺の動物. 岡山県佐伯町田尻大池周辺の自然, pp.26-65.
- 14) 重井博・青野孝昭・近藤光宏, 1998. 鹿久居島の昆虫. 自然保護基礎調査報告書(鹿久居島・北木島・六口島), pp.57-92.
- 15) 重井博・青野孝昭・近藤光宏, 1998. 安仁神社郷土自然保護地域の昆虫. 自然保護基礎調査報告書-安仁神社郷土自然保護地域-, pp.29-52.
- 16) 山地治, 1989. 岡山県から採集した水生半翅目. すずむし, (123):1-5.
- 17) 山地治, 1992. 岡山市中島(百間川)の池で採集した採集した昆虫. すずむし, (127):18-20.

おとしへみ

体長30.6mmのナツアカネを採集

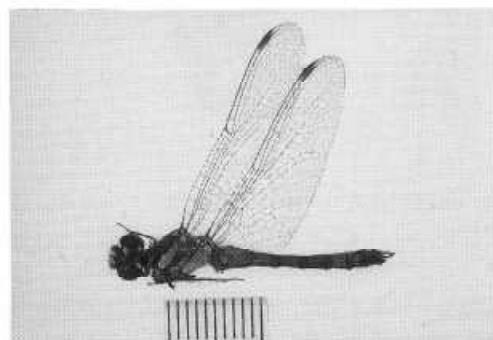
守 安 敦

ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (SELYS) の腹長は、石田ほか (1991) によると、22mm~27mmであると記されている。また、四万十とんほ自然館の杉村光俊氏にうかがったところ、氏の持たれている本種標本(約500体)の中では、体長32mmの雄が最小個体であるとの返事であった。

筆者は、本種の最小記録と思われる体長30.6mm、腹長20.0mmの個体を検する機会があったので報告しておく。測定は、乾燥標本にノギス(最小目盛り0.1mm)をあてて行った。なお、採集地の後の()内にメッシュコードを示しておく。

1♂, 岡山県岡山市貝殻山(51346091), 26. IX.
1998, 近藤隆夫採集・保管(写真)

末筆ではあるが、記録の発表を快く許された近藤隆夫氏、本種の体長についてご教示頂いた杉村光俊氏に心よりお礼申し上げる。



引用文献

石田昇三・小島圭三・石田勝義・杉村光俊, 1991. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 140pp. 東海大学出版会, 東京.

(〒710-0843 倉敷市浦田2430)

総社市、岡山市、吉井町、和気町で採集したムカシトンボ幼虫

守 安 敦

ムカシトンボ *Epiophlebia superstes* (SELYS) は、日本特産種で、北海道、本州、四国、九州に分布し、山間の森林に囲まれた急流に生息している。岡山県では、総社市楓¹⁾、芳井町池谷²⁾など、かなり南部でも採集されている。

筆者は、総社市、岡山市、和気郡和気町で採集された本種幼虫を確認しているので、報告する。また、赤磐郡吉井町でも本種幼虫が採集されているので、併せて報告しておく。なお、採集地の後の（ ）内はメッシュコードである。

1 ex. 幼虫、赤磐郡吉井町滝山 (52342080), 31.

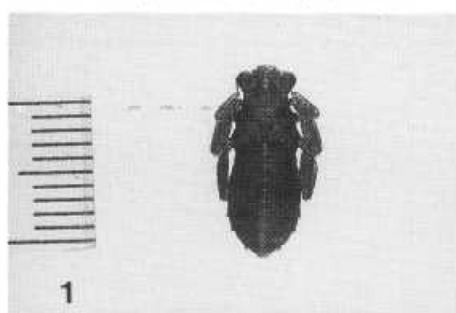
VII. 1994, 井上今日子採集、岡山県自然保護センター保管

2 exs. 幼虫、総社市楓 (楓谷川) (52330550), 20.
VI. 1998, 筆者採集・保管

1 ex. 幼虫、岡山市河原 (52331643), 23. I.
1999, 筆者採集・保管 (写真 1)

2 exs. 幼虫、和気郡和気町岸野中ノ谷 (52342142),
31. I. 1999, 筆者採集・保管

1 ex. 幼虫、和気郡和気町岸野中ノ谷 (52342142),
31. I. 1999, 近藤隆夫採集、筆者保管



1

岡山県自然保護センターの森生枝氏によると、吉井町の採集地は、滝山川最上流部で、川幅約1m、岩がごろごろしているところであったそうである。

総社市の採集地では、既に本種の成虫が採集されている¹⁾が、幼虫の採集は初めてである。

岡山市の採集地は、古生層にある渓流（写真2）で、濃い青色の岩が露出している。しかし、渓流の上流部には花崗岩があるため、花崗岩の大きな岩も転がっていた。本種を採集したのは、落ち込みから次の落ち込みまでの間にある瀬の部分である。瀬の部分の小石はほとんどが花崗岩で、また、渓流の周りには木が覆い被さっており、流れの傾斜もかなり急であった。ここ

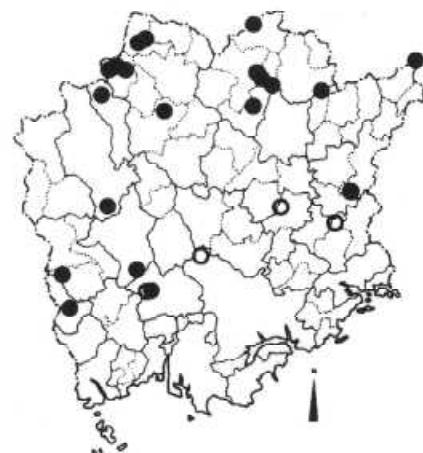
で採集した本種幼虫の体色は、総社市や和気町のものが黒褐色であったのに対し、赤褐色であった。



2

和気町の採集地は、古生層にある渓流で、周辺部の地質は流紋岩である。この渓流にある黄谷の滝の上流部で採集した。

本種の採集地を岡山県地図にプロットすると、今回の採集地がいずれもかなり南部であることが分かる。



岡山県におけるムカシトンボの産地

●：過去の記録

○：筆者が今回確認した産地

また、いずれの渓流も、一部が古生代から中生代の地層の中を流れているという共通点がある。

末筆ではあるが、記録の発表を快く許された井上今日子、近藤隆夫の両氏、採集地の様子を教えて頂いた岡山県自然保護センターの森生枝氏に心よりお礼申し上げる。

引用文献

- 1) 大島康宏・奥島雄一, 1994. ムカシトンボの岡山県における南限記録. しぜんしくらしき, (11) : 9.
- 2) 守安敦, 1996. 岡山県におけるムカシトンボの分布と新産地. すずむし, (129) : 33-34.
(〒710-0843 倉敷市浦田2430)

岡山県から採集した甲虫類の記録

山 地 治*

岡山県下から採集した甲虫類のうち記録の少ないと思われる若干の種について報告する。

同定の便を取って頂いた芦田久氏、吉原一美氏、貴重な採集記録を提供下さった植田千弘氏、福田元信氏、野嶋宏一氏、吉原一美氏、渡辺和夫氏に感謝申上げる。

なお学名・和名は原色日本甲虫図鑑Ⅱ～Ⅳに従い、採集者名は姓のみにさせて頂いた。

一部の種に対しては写真を添付したが、その番号は学名の前の番号に対応している。

今回パソコン通信ニフティーサーブの昆虫フォーラムで速報した種があるが、今現在では電子メディアの記録は文献としての位置づけが十分でないと思い、それらについても報告するものである。

1. *Trechiamma yokoyamai rectus* S. UENO

ジャノアナナガチビゴミムシ
川上町穴門山神社, 6exs., 29. IV. 1998, 山地,
芦田久氏同定

ジャノアナナガチビゴミムシは芳井町蛇の穴を基産地として記載された亜種であり、他からはまだ記録はないが、今回5kmほど北にあたる穴門山神社で洞窟から流れ出る水路が谷川にそそぐ場所の浅い土中から採集出来た。

芦田氏によると♂のゲニタリアが*rectus*の記載文とよく一致するそうである。

2. *Pterostichus shotaroi* MORITA ナンキナガゴミムシ
勝北町奥津川, 1 ♂, 25. V. 1997, 福田

♂ゲニタリアの先端がカギ状になっている特徴的な種である。奥津川の南側の滝山では近似種であるダイセンナガゴミムシが記録されているので、2種は混棲するのかもしれない。

3. *Dromius quadraticollis* MORAWITZ

イクビホソアトキリゴミムシ
津市山野介代, 1ex., 5. II. 1995, 福田
加茂町下津川, 1ex., 12. I. 1995, 福田

4. *D. crassipalpis* BATES

フトヒゲホソアトキリゴミムシ
加茂町下津川, 1ex., 12. I. 1995, 福田

前種と同様にケヤキの樹皮下で越冬中を採集

5. *Neohydinus hozumii* NAKANE

ヤマトヒメメダカカッコウムシ
邑久町錦海塩田跡地, 7exs., 9. V. 1998, 山地
アシのビーティングで採集した。県内での記録は少ない。

6. *Figulus binodulus* WATERHOUSE チビクワガタ

岡山市芳賀, 1ex., 11. IV. 1998, 山地
畠のへりの切り株を這っていた個体を採集した。県内では古くから記録があるが、局所的である。昆虫フォーラムで速報した種である。

7. *Ptilineurus marmoratus* (REITTER)

クシヒゲシバンムシ
東栗倉村後山, 1 ♀, 17. VI. 1993, 植田

8. *Biphyllus marmoratus* (REITTER)

セスジムクゲキスイ
余義町滝山, 1ex., 5. VII. 1998, 山地

9. *Cryptocephalus luridipennis pallescens* KRAATZ

ニセコヤツボシツツハムシ
神郷町新在家, 1ex., 8. V. 1995, 野嶋
最近になって日本から報告された種で、従来コヤツボシツツハムシと混同されていたようである。

10. *Ophraella notulata* (FABRICIUS) プタクサハムシ
岡山市牟佐(旭川左岸), 7exs., 26. IX. 1998, 山地

大野(1997)によって紹介された北米原産のハムシで、1997年に関東地方に侵入していたことが分かったが、1998年には大阪近郊でも確認された。同じ1998年にもう岡山県に侵入していたことが判明したわけである。

今回の採集は増水時に岸辺に打ち上げられたゴミの上から採集されたものなので、もともとの生息地は不明であるが、複数の個体が採集出来たことより牟佐の近辺であろうと推測すると共に、採集時の状況からすると、周辺にかなりの個体数がいると思われる。

日本に侵入・拡散している状態がかなりの精度でモニターされている数少ない種で、注目に値する。

これも昆虫フォーラムで速報した種である。

11. *Notocyrthus sanguinipennis* (ROELOFS)

セアカチョッキリ

中和村山乘山, 1ex., 1-2, IX, 1984, 渡辺
標本は倉敷市立自然史博物館に保管

12. *Listroderes costirostris* SCHOENHERR

ヤサイゾウムシ

岡山市芳賀, 3exs., 23. VI, 1998, 山地

日本で初めて岡山県(倉敷市)から発見された有名な種であるが、はっきりした岡山市からの記録が見当たらなかったので報告しておく。

これも昆虫フォーラムで速報した種である。

13. *Hypera punctata* (FABRICIUS) オオタコゾウムシ

奈義町滝山, 1ex., 5. VII, 1998, 山地

滝山の駐車場より少し下の道縁の草に止まっていたものを採集した。

14. *Derelomus uenoii* MORIMOTO シュロゾウムシ

新見市野田, 21exs., 24. V, 1987, 吉原

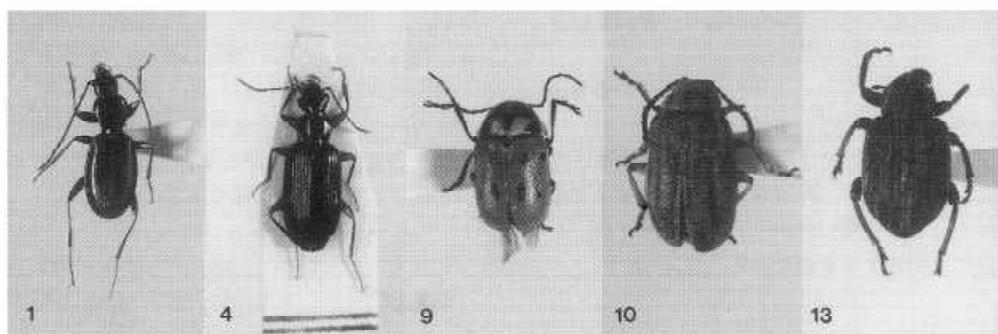
標本は倉敷市立自然史博物館に保管

15. *Phrissoderes rufitarsis* (ROELOFS)

ツヤハダヒメゾウムシ

上齋原村三が上(山上山), 1ex., 7. VII, 1990,
山地, 吉原氏同定

県内からの記録が少ない種である。



台風10号による洪水で漂着したゴミムシ

山地 治*

1998年10月18日未明に台風10号による洪水が津山市を中心として岡山県内に広く発生した。

筆者はその7日後に岡山市久々井の海岸で2時間ほど採集を行った結果、漂着物の中からオサムシ科、クビボソゴミムシ科甲虫を合わせて45種採集することができたので報告する。

漂着物は植物の枯れた茎を中心としたもので、海岸に帶状に漂着していたが、多いところでも幅1.5m厚さ10cmくらいで意外と少なかった。

表面にはアリモドキ類やカメムシ類が目に付いたが、ゴミムシ類は主にその下から採集した。

久々井海岸は児島湾の出口近くにあり、旭川、吉井川からの漂流ゴミが流れ着いていたのであろうが、位置関係からして恐らく吉井川からの漂着物が多かった

のではないかと考えられる。

以下の記録の採集地は岡山市久々井海岸、採集年月日は1998年10月25日、採集者は筆者である。

1. *Scarites aterrimus* MORAWITZ

ヒヨウタンゴミムシ, 1ex.

この種はもともと海岸に棲息していたものであろう。

2. *Trechus ephippiatus* BATES

ヒラタキイロチビゴミムシ 1ex.

個体数は多かった。

3. *Macrotachys recurvicollis* (ANDERWES)

アトオビコミズギワゴミムシ, 5exs.

4. *Tachyura fuscicauda* (BATES)

ウスモンコミズギワゴミムシ, 1ex.

5. *Bembidion cnemidotum* BATES

ウスモンミズギワゴミムシ, 1ex.

* 〒701-1221 岡山市芳賀5116-11

6. *Patrobus fluvipes* MOTSCHULSKY
キアシヌレチゴミムシ, 1ex. (破損死個体)
7. *Lesticus magunus* (MOTSCHULSKY)
オオゴミムシ, 1♀
8. *Pterostichus planicollis* (MOTSCHULSKY)
キンナガゴミムシ, 3♂ 3♀
県北部ではよく見られるが、南部では記録の少ない種である。
9. *P. sulcifrons* MORAWITZ
アシミゾナガゴミムシ, 4♂ 10♀
10. *P. haptoderoides* japanensis LUTSHNI
トックリナガゴミムシ, 1♂ 2♀
11. *P. longinquus* BATES
コホソナガゴミムシ, 1♂ 5♀
12. *P. microcephalus* (MOTSCHULSKY)
コガシラナガゴミムシ, 1♀
13. *Platynus leucopus* (BATES)
タンゴヒラタゴミムシ, 2exs.
14. *P. chalcomus* (BATES)
アオグロヒラタゴミムシ, 1♂
15. *Synuchus arcuaticollis* (MOTSCHULSKY)
マルガタフヤヒラタゴミムシ, 1♀
16. *Amara chalcites* DEJEAN
マルガタゴミムシ, 7♂
♀も採集したが同定出来ないので♂に関してのみ報告する。
17. *A. chalcophaea* BATES
コアオマルガタゴミムシ, 2♀
18. *A. simplicidens* MORAWITZ
コマルガタゴミムシ, 1♂ 1♀
19. *A. gigantea* (MOTSCHULSKY)
オオマルガタゴミムシ, 1♂
20. *Anisodactylus punctatipennis* MORAWITZ
ホシボシゴミムシ, 2♂ 1♀
21. *A. sadoensis* SCHAUERGER
オオホシボシゴミムシ, 1♂ 3♀
22. *Harpalus capito* MORAWITZ
オオゴモクムシ, 1♀
23. *H. griseus* (PANZER)
ケウスゴモクムシ, 2♂
24. *H. eous* TSCHITSCHERINE
オオズケゴモクムシ, 1♂
25. *H. tridens* MORAWITZ
コゴモクムシ, 2♂ 1♀
26. *H. platynotus* BATES
ヒラタゴモクムシ, 1♀
27. *H. chalcentus* BATES
ツヤアオゴモクムシ, 1♀
28. *H. tinctulus* BATES
アカアシマルガタゴモクムシ, 3♀
29. *Bradyceillus subditus* (LEWIS)
コクロヒメゴモクムシ, 1ex.
30. *B. fimbriatus* BATES
マルヒメゴモクムシ, 1ex.
31. *Stenolaphus propinquus* MORAWITZ
ムネアカマゴモクムシ, 1ex.
32. *S. iridicolor* REDTENBACHER
ツヤマメゴモクムシ, 2♂
33. *S. fulvicornis* BATES
マメゴモクムシ, 1♂ 3♀
34. *Anoplogenus cyanescens* (HOPE)
キベリゴモクムシ, 1♂ 2♀
35. *Peronomerus auripilis* BATES
イグチケブカゴミムシ, 2exs.
36. *P. nigrinus* BATES
クロケブカゴミムシ, 1ex.
37. *Chlaenius variicornis* BATES
コガシラアオゴミムシ, 1♀
38. *C. kurosawai* KASAHIARA
ニセコガシラアオゴミムシ, 1♀
最近県内で記録され始めた種である。
39. *C. posticalis* MOTSCHULSKY
キボシアオゴミムシ, 1♀
40. *C. inops* CHAUDOIR
ヒメキベリアオゴミムシ, 2♂
41. *Lachnuncris protixa* (BATES)
トックリゴミムシ, 2♀
42. *Odacantha aegrota* (BATES)
チャバネクビナガゴミムシ, 3exs.
かなり多くの個体が見られた。
43. *Archicolluris bimaculata nipponica* HABU
フタモンクビナガゴミムシ, 2exs.
44. *Drypta japonica* BATES
オヘリホソゴミムシ, 2exs.
45. *Brachinus stenoderus* BATES
コホソクビゴミムシ, 1ex.

おどしうみ

イシガケチョウの目撃記録 3例

近 藤 光 宏

イシガケチョウは、今や珍しくはないが、その後の発生状況を知るうえで参考になるのではないかと思い、ここにデータのみ報告する。

2exs., 倉敷市粒江種松山山麓（一尺谷）, 6. VI.

1998, 筆者目撃

1ex., 玉野市金甲山山麓, 22. VII. 1998, 筆者目撃

1ex., 倉敷市粒江種松山山麓（一尺谷）, 17. VII.

1998, 筆者目撃

(〒710-0046 倉敷市中央2-16-1,

倉敷市立自然史博物館)

岡山県御津郡建部町田地子における イトトンボ類及びトンボ類の記録

澤 田 博 仁*

前回「すずむし」第129号で報告したヤンマ類の記録に続き、Part IIとして、イトトンボ類とトンボ類の記録を報告する。

前回報告後も何度か現地田地子を訪問したが、相変わらず柵が巡らされていて、中へ入ることができなかつた。しかし、昨年（1997年）の8月中旬の事、現地で草むしりをしていた親父さんに出会つたので、柵を巡らしている理由が分かるかもしれないと思い、尋ねたところ、何とその池を含めたその付近一帯の地主さんだった。

色々お話をしている間に、彼の所有する白樺山荘へ案内され、コーヒーを頂きながら、トンボの話やら、柵を巡らざるを得なかつた理由等を聞かせて頂いた。また、今後、彼の名刺を持って入れば、どうぞ自由に研究して下さいとの了解まで頂き、このトンボの楽園をいつまでも守りたいという気持ちで一致し、嬉しい思いで、この山荘を後にした次第である。



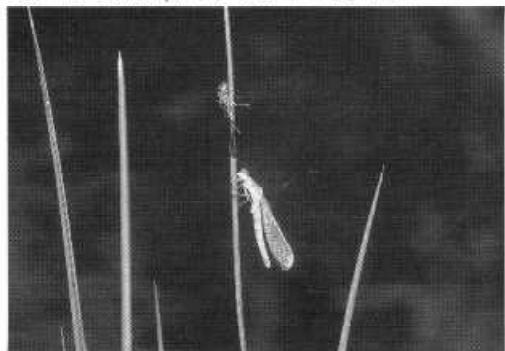
現地の近況 (1998.5.4撮影)

なお、早くPart IIを出さねばと思いつながら、今日まで遅くなってしまったことを、深くお詫びいたします。

記録については、採集場所は全て御津郡建部町田地子なので省略し、採集年月日に統いて、採集個体数と採集者名（筆者の家族であるため、姓は省略した）を示した。種の配列及び学名・和名は、浜田・井上（1985）に従つた。また、ニシカリトンボについては、渡辺和夫氏に同定をお願いした。氏には深謝する。

Coenagrionidae イトトンボ科

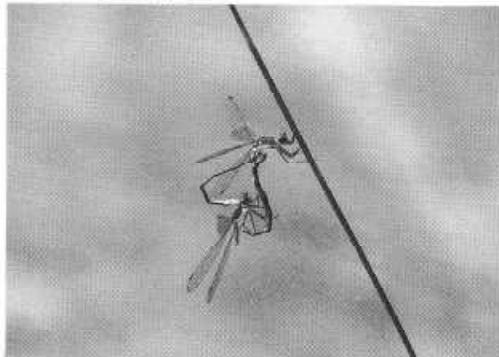
1. *Mortonagrion selenion* (Ris) モートンイトトンボ
3. VII. 1992: 1♂ 5♀, 筆者; 1♂, 愛子
2. *Aciagrion migratum* (SELYS) ホソミイトトンボ
28. IV. 1991: 3♂, 筆者
29. IV. 1992: 1♂, 筆者
2. VI. 1992: 2♂, 筆者
9. VI. 1992: 1♂, 愛子
3. VII. 1992: 1♂, 筆者
5. V. 1993: 2♂ 1♀, 筆者; 1♂ 1♀, 昭子
3. *Ceriagrion melanurum* SELYS キイトトンボ
16. IX. 1991: 2♂, 筆者; 2♂, 愛子; 4♂, 若菜; 3♂, 雅人; 2♂, 昭子
3. VII. 1992: 3♂, 筆者; 5♂, 愛子
28. VIII. 1992: 4♂, 筆者; 2♂, 愛子; 2♂, 若菜; 2♂, 雅人; 2♂, 昭子
23. VIII. 1993: 6♂, 筆者; 10♂, 愛子
26. IX. 1993: 1♂, 愛子; 1♂, 昭子



キイトトンボの羽化

4. *Ischnura asiatica* BRAUER アジアイトンボ
5. V. 1993: 1♀, 筆者
5. *Cercion calamorum calamorum* (Ris)
クロイトトンボ
23. VIII. 1993: 4♂, 筆者; 4♂, 愛子
- Platycnemididae モノサシトンボ科
6. *Platycnemis foliacea sasakii* ASAHIKA
グンバイトンボ
3. VII. 1992: 1♂, 筆者 (澤田, 1997)

7. *Copera annulata* (SELYS) モノサントンボ
16. IX. 1991: 1 ♂, 昭子
28. VIII. 1992: 3 ♂, 筆者; 1 ♂, 愛子
23. VIII. 1993: 2 ♂, 筆者; 1 ♂, 愛子
- Lestidae アオイトトンボ科**
8. *Lestes sponsa* (HANSEMANN) アオイトトンボ
16. IX. 1991: 8 ♂ 3 ♀, 筆者; 9 ♂ 3 ♀, 愛子;
12 ♂, 若菜; 6 ♂, 雅人; 10 ♂, 昭子
29. IX. 1991: 1 ♂, 筆者; 1 ♀, 愛子; 1 ♂ 1 ♀,
若菜
3. VII. 1992: 1 ♀, 筆者; 1 ♀, 愛子
1. IX. 1992: 1 ♂, 筆者
11. IX. 1992: 1 ♂ 2 ♀, 筆者; 2 ♂, 愛子
23. IX. 1992: 1 ♂, 筆者
30. IX. 1992: 2 ♂ 1 ♀, 筆者; 5 ♂ 4 ♀, 愛子
6. X. 1992: 1 ♂, 愛子
26. IX. 1993: 4 ♂, 筆者; 2 ♂, 愛子; 4 ♂, 雅
人; 2 ♂, 昭子



アオイトトンボの交尾

9. *Lestes temporalis* SELYS オオアオイトトンボ
11. IX. 1992: 1 ♂, 筆者
30. IX. 1992: 2 ♀, 愛子
1. X. 1992: 1 ♂ 1 ♀, 筆者
26. IX. 1993: 1 ♂, 筆者
10. *Indolestes peregrinus* (RIS)
ホソミオツネントンボ
28. IV. 1991: 1 ♂ 1 ♀, 筆者; 4 ♂, 愛子
5. V. 1991: 1 ♂, 愛子; 1 ♀, 雅人
2. VI. 1992: 1 ♂ 2 ♀, 筆者; 2 ♂, 愛子
9. VI. 1992: 1 ♂, 愛子
3. V. 1993: 1 ♂, 昭子
5. V. 1993: 2 ♂, 筆者
1. VI. 1993: 2 ♂, 筆者
2. V. 1994: 2 ♂ 3 ♀, 筆者; 1 ♂, 愛子
- Calopterygidae カワトンボ科**
11. *Mnais pruinosa pruinosa* SELYS ニシカワトンボ

5. V. 1991: 2 ♂, 筆者; 1 ♂, 愛子; 1 ♂, 若
菜; 1 ♀, 雅人
9. VI. 1992: 2 ♂, 筆者
5. V. 1993: 1 ♂ (*esakii*), 昭子
1. VI. 1993: 1 ♂, 筆者
2. V. 1994: 2 ♂ (両個体とも *esakii*), 筆者
6. V. 1997: 7 ♂ (うち 1 個体 *esakii*) 2 ♀, 筆
者; 3 ♂ 2 ♀, 愛子
17. V. 1997: 5 ♂ (うち 2 個体 *esakii*) 1 ♀, 筆
者; 2 ♂ (うち 1 個体 *esakii*), 愛子
型については、*esakii*と明示してある記録以外の♂
は *strigata*, ♀はすべて *sieboldii*である。

Gomphidae サナエトンボ科

12. *Trigomphus interruptus* (SELYS) フタスジサナエ
5. V. 1991: 1 ♂, 昭子
5. V. 1993: 1 ♀, 愛子
13. *Sieboldius albardae* SELYS コオニヤンマ
26. VIII. 1990: 1 ♀, 筆者

Libellulidae トンボ科

14. *Orthetrum japonicum japonicum* (UHLER)
シオヤトンボ
5. V. 1991: 1 ♂, 筆者
2. VI. 1992: 1 ♂, 筆者
5. V. 1993: 1 ♀, 愛子
6. V. 1997: 1 ♀, 筆者

15. *Orthetrum triangulare melania* (SELYS)
オオシオカラトンボ
28. VIII. 1992: 1 ♂, 愛子

16. *Libellula quadrimaculata asahinai* SCHMIDT
ヨツボシトンボ
2. VI. 1992: 3 ♂, 筆者; 2 ♂, 愛子
1. VI. 1993: 2 ♂, 筆者



ヨツボシトンボとクロスジギンヤンマの抜殻

17. *Nannophya pygmaea* RAMBUR ハツチョウトンボ
2. VI. 1992: 3 ♂ 2 ♀, 筆者; 5 ♂ 2 ♀, 愛子
9. VI. 1992: 11 ♂ 8 ♀, 筆者; 5 ♂ 5 ♀, 愛子

3. VII. 1992 : 2♂5♀, 筆者; 4♂4♀, 愛子
 28. VIII. 1992 : 1♂1♀, 筆者; 1♂, 愛子; 1♀, 若菜; 1♀, 雅人; 1♂, 昭子
 1. VI. 1993 : 4♂3♀, 筆者; 4♂4♀, 愛子
 23. VIII. 1993 : 1♀, 筆者; 1♂, 愛子
 18. *Crocothemis servilia mariannae* KIAUTA
 ショウジョウトンボ
 3. VII. 1992 : 1♂, 筆者; 1♂, 愛子
 19. *Sympetrum frequens* (SELYS) アキアカネ
 20. X. 1992 : 2♂, 愛子
 26. IX. 1993 : 2♂, 愛子
 20. *Sympetrum darwinianum* (SELYS) ナツアカネ
 16. IX. 1991 : 1♂, 筆者; 1♀, 愛子; 1♂1♀, 若菜; 3♂4♀, 雅人; 3♂, 昭子
 29. IX. 1991 : 1♀, 愛子; 1♂, 雅人
 30. IX. 1992 : 1♂, 筆者; 1♂2♀, 愛子
 26. IX. 1993 : 2♀, 愛子; 2♀, 昭子



ナツアカネの連結飛行

21. *Sympetrum eroticum eroticum* (SELYS)
 マユタテアカネ
 29. IX. 1991 : 1♀, 雅人
 28. VIII. 1992 : 1♂, 雅人
 6. X. 1992 : 1♀, 愛子
 26. IX. 1993 : 1♀, 愛子
 22. *Sympetrum parvulum* (BARTENEV) ヒメアカネ
 16. IX. 1991 : 1♂, 若菜; 1♀, 愛子
 29. IX. 1991 : 2♂1♀, 筆者; 2♂, 愛子; 1♂, 雅人; 1♂1♀, 昭子
 28. VIII. 1992 : 1♂1♀, 昭子
 11. IX. 1992 : 1♂, 愛子
 1. X. 1992 : 1♂, 筆者
 23. VIII. 1993 : 1♂1♀, 筆者
 26. IX. 1993 : 1♂1♀, 筆者
 23. *Sympetrum infuscatum* (SELYS) ノシメトンボ
 29. IX. 1991 : 1♂, 雅人
 26. IX. 1993 : 1♂, 筆者

26. IX. 1993 : 1♂, 愛子
 24. *Sympetrum risi risi* BARTENEV リスアカネ
 26. IX. 1993 : 1♂, 筆者
 25. *Sympetrum speciosum speciosum* OGUMA
 ネキトンボ
 16. IX. 1991 : 1♂1♀, 筆者
 29. IX. 1991 : 1♂, 筆者; 1♂, 若菜
 28. VIII. 1992 : 1♂, 筆者
 11. IX. 1992 : 6♂1♀, 筆者; 4♂, 愛子
 30. IX. 1992 : 1♂, 筆者
 6. X. 1992 : 1♀, 筆者
 20. X. 1992 : 2♂, 筆者
 26. IX. 1993 : 3♂1♀, 筆者; 2♂, 愛子

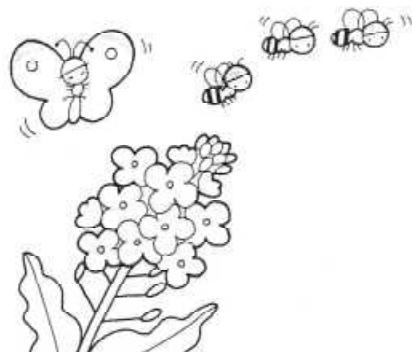


ネキトンボの交尾

26. *Pantala flavescens* (FABRICIUS) ウスバキトンボ
 16. IX. 1991 : 1♂, 筆者

引用文献

- 浜田 康・井上 清, 1985. 日本産トンボ大図鑑, 371pp. 講談社, 東京.
 澤田博仁, 1996. 岡山県御津郡建部町田地子におけるヤンマ類の記録. すずむし, (129) : 18-19.
 澤田博仁, 1997. 旭川水系のゲンバイトンボ, 初採集記録. すずむし, (131) : 76.



児島半島のゼフィルス2種の採集記録

中 村 具 見*

児島半島の東部に位置する金甲山周辺の地域において、ウラゴマダラシジミ及びウラミスジシジミが発見されたのはごく最近のことであるが、吉備高原地域以北を主な分布域とする両種が瀬戸内沿岸の低山地に生息していることは、この付近におけるチョウ相の特異性を示唆するものとして注目される。

筆者も、これまで南部の特に瀬戸内沿岸地域での調査をほとんど行っていなかったことを反省しつつ、あらためて金甲山周辺地域における両種の分布調査を行ったところ、興味深い知見が得られたので報告しておく。

1. ウラゴマダラシジミ

玉野市では、山崎(1995)により、金甲山南麓の八浜町波知で発見されたもので、その後、金甲山頂上(森山, 1997)及び十津寺山頂上付近(三宅, 1998)からも得られている。

筆者は、今回の調査により、既知産地も含めて、下記の地点から本種を確認することができた。

玉野市八浜町波知・元波知, 1♂2♀, 2. VI. 1996; 終令幼虫及び蛹 8 exs. (イボタノキより), 25. IV. 1998; 4♂3♀, 20. V. 1998

玉野市八浜町波知・庄, 2♀, 20. V. 1998

玉野市八浜町波知・池迫, 終令幼虫及び前蛹 3 exs. (イボタノキより), 25. IV. 1998

玉野市八浜町見石・碁石, 1♀, 30. V. 1998

玉野市大藪, 6♂, 23. V. 1998; 12♂, 24. V. 1998; 3♂1♀, 28. V. 1998; 1♀, 31. V. 1998
玉野市十津寺山中腹, 1♂1♀, 31. V. 1998

食樹であるイボタノキは、児島半島一帯に広く見られる暖温帯落葉二次林(主要な構成樹種は、アベマキ、クヌギ、コナラ、ナラガシワ等の落葉ケルクスである。)の低木層にやや普通に自生する樹種で、雑木林の林縁や湿地の周辺等において特に多く見ることができる。このため、金甲山周辺地域では、さらに広い範囲に分布している可能性がある。

次に、この地域で得られた個体群に関して、県内の他の地域とは異なる変異傾向が認められることを指摘しておきたい。

まず、岡山県も含めて中国地方において通常出現する、前後翅表の青白色部が発達したいわゆる正常型の個体に混じって、近隣地域では四国地方において普通に出現する黒化型が得られたことである。

黒化型は、上記の産地のうち玉野市大藪で得られたもので、♂♀合わせて23個体(21♂2♀)のうちの7個体(6♂1♀)と、全体の約3分の1程度の比率で見出された[写真1, 2]。

次に、正常型についても、手元にある児島半島産の個体群全体に共通する特徴として、県内の他地域に見られる個体群に比べて、♂では前翅表第2室及び第3室から中室にかけて発現する白色斑が発達して楔状を呈する個体が多くみられること、また♀では前後翅ともに白色部の発達がよいといった傾向が認められた[写真3, 4]。

このように、児島半島に生息する本種が岡山県内の他産地とは異なり、むしろ瀬戸内海を挟んで目と鼻の先にある四国地方と共通した変異傾向を示すことは、この付近における本種の由来を考えるうえからも、興味深いことと思われる。

2. ウラミスジシジミ

児島半島からは、片岡(1994)により玉野市八浜町大崎で発見され、同地からは、その後も三宅(1995)、片岡(1997)、片岡(1998)により報告されているが、金甲山周辺地域においては、今のところ同地以外からは記録されていないようである。

筆者は、新たに下記の地点で本種を確認することができた。

玉野市八浜町見石・碁石, 1♂2♀, 24. V. 1998; 1♂1♀, 31. V. 1998

玉野市十津寺山, 1♂1♀, 31. V. 1998; 1♂1♀, 6. V. 1998

玉野市大藪, 1♂, 31. V. 1998

玉野市後閑, 1♂, 6. VI. 1998

十津寺山では、尾根筋の遊歩道べりから山頂付近にかけての瀬戸内海側斜面に残されたクヌギやアベマキからなる雑木林とその周辺で採集したものであり、その他の地点では山麓部の水田べりや林道沿いの、やはりクヌギやアベマキが主体の雑木林やその周辺で得られた。

* 〒719-1134 総社市真壁1048

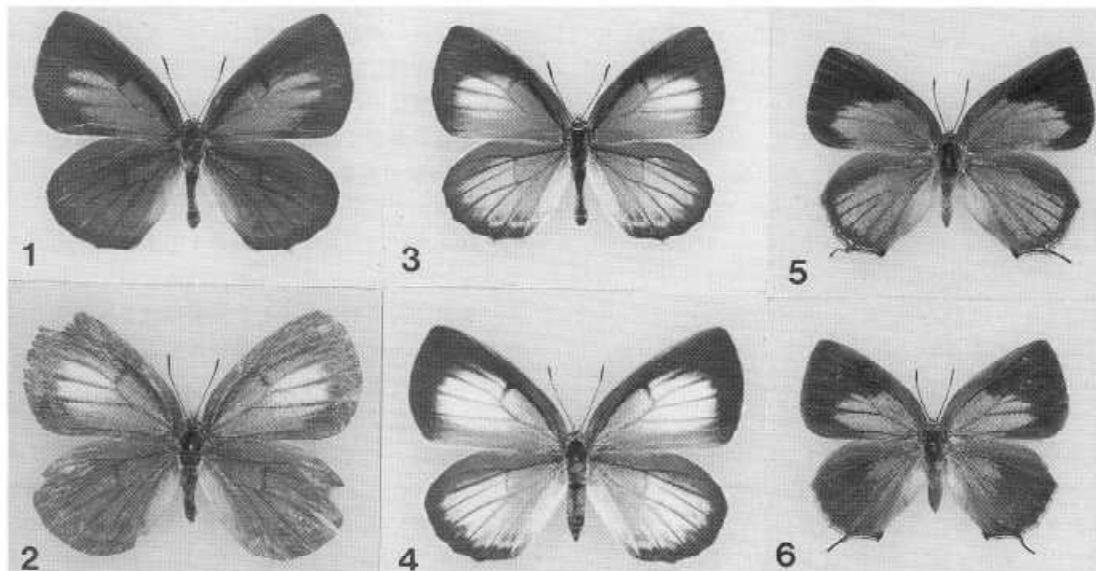
いざれの地域も、クヌギやアベマキ・コナラを主体として、場所によってはナラガシワが混生した落葉二次林が生息環境となっている。

こうした落葉二次林は、児島半島の古生層地帯では、アラカシ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、トベラ等の常緑広葉樹林とともに、山麓部から比較的乾燥した山腹にかけて普通に見られる植生である。したがって、金甲山周辺地域における本種も、意外と広範に分布していることが予想されることから、今後さらに綿密な分布調査が期待されるところである。

引用文献

山崎 稔, 1995. 児島半島にてウラゴマダラシジミを再記録. みちしるべ, (20) :140

- 森山 堅, 1997. 金甲山頂上でウラゴマダラシジミを採集. みちしるべ, (23) :173
 三宅誠治, 1998. ウラゴマダラシジミを十津寺山で採集. みちしるべ, (25) :201
 片岡 一, 1994. 児島半島にてウラミスジシジミを採集. みちしるべ, (17) :93
 三宅誠治, 1995. 児島半島のウラミスジシジミのその後. みちしるべ, (20) :140
 片岡 一, 1997. 3年ぶりにウラミスジシジミを採集. みちしるべ, (23) :173
 片岡 一, 1998. ウラミスジシジミ今年も健在なり. みちしるべ, (26) :213



1~4 ウラゴマダラシジミ

1. 黒化型♂ 玉野市大藪 24. V. 1998採集
 2. " ♀ " "
 3. 正常型♂ 玉野市八浜町波知・池迫
 7. V. 1998羽化

4. 正常型♀ 玉野市八浜町波知・元波知

2. VI. 1996採集
 5~6 ウラミスジシジミ
 5. ♂ 玉野市十津寺山 6. VI. 1998採集
 6. ♀ 玉野市八浜町見石 24. V. 1998採集

おとしふみ

岡山市高松でケブカマルクビカミキリを採集

山 地 治

岡山市高松は本種が多く採集できた所で有名であったが、近年の記録はないようである。筆者は今年(1998年)、久しぶりに採集に訪れたが、かつての場

所は雑木のブッシュのようになっていて入れなかった。しかし、100mほど北にあたる山道が整備されていて、本種の環境には最適に見えた。ここで採集できたのは1個体で、実際に少なくなっているのであろうが、まだ生息はしているようである。筆者の採集品だけを見ると、高松での記録は20年ぶりとなる。

なお、この記録については、すでにパソコン通信の

ニフティーサーブの昆虫フォーラム(3) #695において発言しているものであるが、活字媒体においても記録しておいたほうがいいと考えて報告するものである。

Atimia okayamensis HAYASHI ケブカマルクビカミキリ

岡山市高松, 1♂, 11. IV. 1998, 筆者採集

(〒701-1221 岡山市芳賀5116-11)

キオビホオナガスズメバチの採集記録

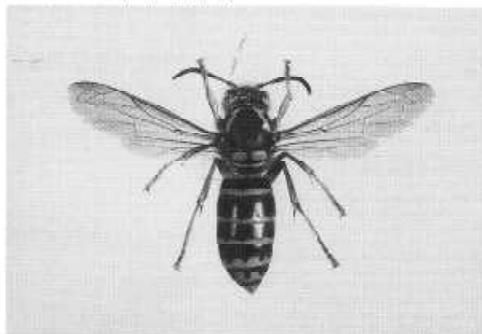
近藤光宏

数年前のことになるが、筆者は毛無山山麓の東谷でキオビホオナガスズメバチ（写真）を採集した。これまで岡山県下での確認例は、ほとんど聞いたことがないで、ここに報告する。

Dolichovespula media sugare (ISHIKAWA)

キオビホオナガスズメバチ

3exs., 岡山県真庭郡新庄村田浪毛無山東谷, 14.
VIII. 1994, 筆者採集



岡山県からは、すでに1980年代に県立森林公園（苦田郡）から宇野弘之氏による本種のものと思われる営巣の目撃例があり、これが恐らく最初の記録と思われる。

島根県（1997）は、隣県における分布状況から、本種の分布は極めて局所的であるとし、「要注意種」に取り上げて次のように述べている。

「本種は北方系種で、かつては本州中部以北の山地及び北海道に産し、広く旧北区の温帯以北に生息するとされていた。その後日本産種は北海道産種と本州産種の2亜種に分けられた。」従って、この度の記録は、本州亜種ということになる。

「成虫の体長は15~24mm。黒色で光沢がある。働き蜂の腹部の斑紋は著しく変異に富む。巣は主に森林内にあって樹木の枝等に造られ、その規模はスズメバチ類の仲間ではより小形である。」

また、「キイロスズメバチやコガタスズメバチなどが都市に馴化して密度を増大させている事実とは好対照に、キオビホオナガスズメバチの分布は、そこに豊

かな自然が残されている証であろう」とも述べられており、筆者も共感を覚えた次第である。

一方、ウエスコ（1995）は、同じ1994年に毛無山の西の谷及び頂上付近において1♂1♀を記録しており、本種が岡山県に生息することはより明らかになった。

引用文献

松浦誠, 1988. スズメバチはなぜ刺すか. 291pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

ウエスコ, 1995. 毛無山自然環境調査報告書. 77pp. 株式会社ウエスコ, 岡山.

島根県, 1997. しまねレッドデータブック島根県の保護上重要な野生動植物動物編. 417pp. 三瓶フィールドミュージアム財団, 大田.

(〒710-0046 倉敷市中央2-6-1,

倉敷市立自然史博物館)

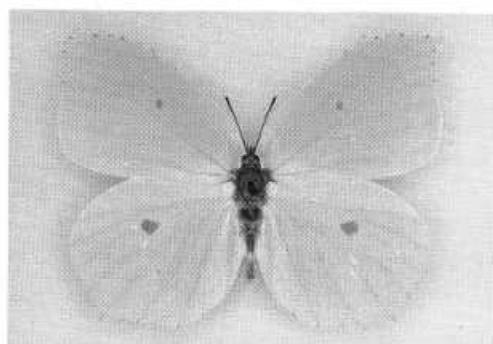
岡山市足守地区のスジボソヤマキチョウ

中村具見

スジボソヤマキチョウは、県内では吉備高原から中国山地にかけて生息が確認されており、岡山平野とその周辺の瀬戸内沿岸低地帯からは今のところ発見されていない。

吉備高原の南端部から瀬戸内沿岸低地帯にかけての地域が含まれる岡山市では、これまで北部の金山（倉敷昆虫同好会, 1972）において記録されているだけである。近年、金山付近での採集例はないようであるが、筆者は市内北西部に位置する足守地区において本種の分布を確認しているので、少し古い記録ではあるが下記のとおり報告しておく。

岡山市上高田 (230m), 9卵 (クロウメモドキから), 28. III. 1982; 約20個 (同), 下旬. III. 1987 (正確な採卵日は記録していなかったもの)



岡山市上高田産♂ 15. V. 1987羽化

御津町境の勝尾峠の手前付近にある落葉広葉樹林内において採集したもの。ゆるやかな南向き斜面の山麓

にある雑木林は、樹高3~4m程度のコナラやナラガシワ等で構成されており、その一角にクロウメモドキがまとまって自生していた。

当日は晴天で気温も高かったため、林床を緩やかに飛ぶ越冬成虫2♂1♀を目撃している。なお、その後付近一帯は砂利採石場となって生息地は消滅した。

岡山市河原・別所(320m), 8卵, 31. III. 1991; 22卵, 10. IV. 1994 (いずれもクロウメモドキより)

賀陽町境に近い渓谷に沿って巡る林道の終点付近にしばらく伐採を免れたやや古い落葉広葉樹林が残されている。樹林内には、この付近では珍しく樹高3~4mにも及ぶ古木を含めて10数本のクロウメモドキが自生しており、これらの食樹の先端部に近い細枝や新芽等に産付された卵を得た。

いずれも、大きな地形区分からみると吉備高原地域から瀬戸内沿岸低地帯へ移行する地域であり、県下におけるスジボソヤマキチョウのはば南限にあたる産地と思われる。

引用文献

倉敷昆虫同好会, 1972. 岡山県の蝶. すずむし, (108): 1-62
(〒7149-1134 総社市真壁1048)

マダラツチカメムシの記録

近藤光宏

岡山県(1978)には、県内産ツチカメムシ科としてヨコヅナツチカメムシ、ツチカメムシ、マルツチカメムシ、ヒメツチカメムシ、ミツボシツチカメムシ、シロヘリツチカメムシの6種が既記録種として報告されている。また、近藤光宏(1986)には、ベニツチカメムシの報告がある。

筆者は、このほど青森県農業試験場主任研究員の市田忠夫氏に同定して頂く機会に恵まれ、所蔵標本の中にマダラツチカメムシ(写真)2個体が記録されていることがわかった次第である。岡山県初記録と思われ、ここに報告する。

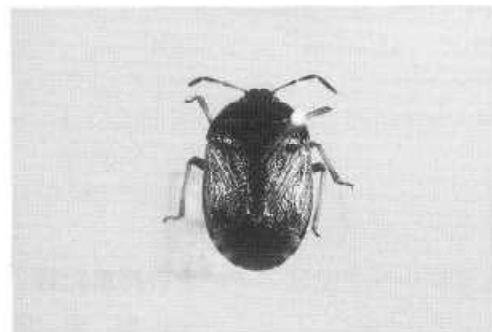
Trigomegas variegatus (SIGNORET)

マダラツチカメムシ

1ex., 岡山県英田郡西粟倉村若杉, 31. V. 1992,
青野孝昭氏採集, 市田忠夫氏同定

1ex., 岡山県英田郡西粟倉村若杉, 16. V. 1993,
青野孝昭氏採集, 市田忠夫氏同定

体長は実測で約5mm, ヒメツチカメムシぐらいの大きさである。また、体色は黒色でかすかにまだら模様が確認できる。



おわりに、市田忠夫氏には本種の同定をして頂き、また、青野孝昭氏にはかつて貴重な標本をお譲り頂いていた。ここに記して感謝の意を表する。

引用文献

- 平嶋義宏, 1989. 日本産昆蟲総目録. pp.82-188. 九州大学農学部昆蟲学教室・日本野生生物研究センター, 北九州.
近藤光宏, 1986. ベニツチカメムシの記録. すずむし, (122): 31.
岡山県, 1978. 岡山県の昆蟲岡山県昆蟲生息調査報告書. 146pp. 岡山県環境部自然保護課, 岡山.
友国雅章, 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 380pp. 全国農村教育協会, 東京.
(〒710-0046 倉敷市中央2-6-1,
倉敷市立自然史博物館)

ヒロオビミドリシジミの早期採集記録について

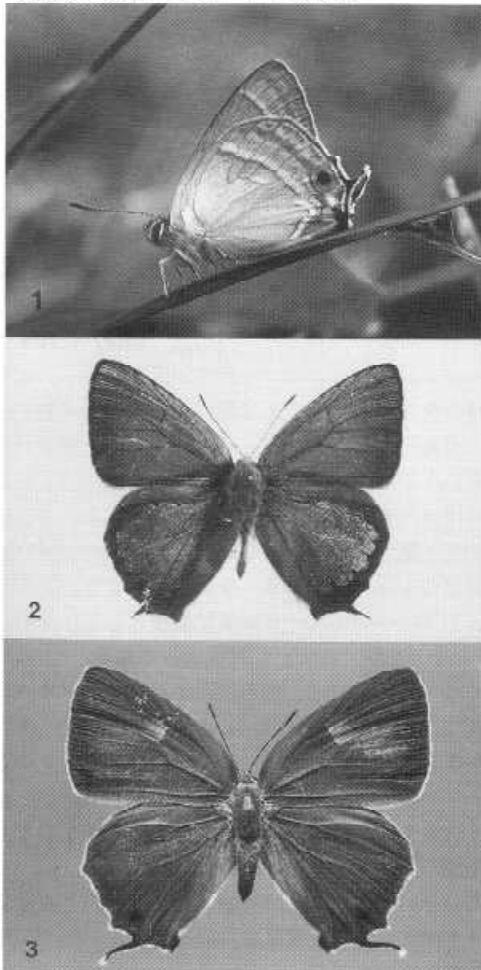
大島康宏・土畠重人

ヒロオビミドリシジミ *Favonius latifasciatus* SHIROZUは、大阪府北部の能勢町と兵庫県東部の猪名川町の境界にある三草山を東限とし、山口県東部の鹿野町を西限とするシジミチョウ科の1種で、低山地のナラガシワ林に産地が点在する。出現時期は6月上旬から7月を最盛期とし、生き残りの♀は9月初めまでみられる。

この度、筆者らは、岡山県新見市千屋で行われた倉敷昆虫同好会の懇親会の帰路、岡山県新見市草間を訪れた際、2頭の本種を採集した。本種の発生時期からすると早い記録で、岡山県下では5月の記録は見当たらないので、その後の5月中の記録とともに、ここに報告する。

- 1♂, 新見市草間切畑, 24. V. 1998, 土畠重人採集・保管(写真1)
1♂, 新見市草間切畑, 24. V. 1998, 大島康宏採集・保管(写真2)

3♂1♀。新見市草間切畑、28. V. 1998、大島康宏採集・保管（うち1♀：写真3）



（大島：〒713-8122 倉敷市玉島中央町1-20-7）
（土畑：〒711-0933 倉敷市児島通生236-3）

岡山県内未記録のトラフホソバネカミキリが採集される

渡辺 昭彦

トラフホソバネカミキリは、特徴のあるカミキリムシではあるが、岡山県からは未記録であった。今回、滝山より下記のように採集できたので報告する。

福田元信氏が最初に採集し、連絡を受けた山地治氏や筆者が採集を試みたところ、複数の個体が採集できた。得られた場所は、最初に得られた地点を中心にかなり広い範囲を探したにも関わらず、いずれの個体も最初に福田氏が採集した地点から数メートルの範囲内で得られた。

Thraupis variegatus BATES トラフホソバネカミキリ
勝田郡奈義町滝山

- 1♀, 16. VI. 1998, 福田元信採集
- 1♂, 5. VII. 1998, 山地治採集
- 1♀, 12. VII. 1998, 福田元信採集
- 1♂1♀, 18. VII. 1998, 筆者採集（灯火）



写真は、山地氏が採集した♂個体で、山地氏自身により撮影されたものである。

なお、同所及び近隣地から県内で記録の少ないカミキリムシ2種類が、次のように採集されているので、併せて報告しておく。

Merionoeda hirsuta (MITONO et NISHIMURA)

スネケブカヒロコバネカミキリ
勝田郡奈義町日本原

- 5♂, 5. VII. 1998, 福田元信氏採集
リョウブの花より得られたとのこと。

Monochamus grandis WATERHOUSE ヒゲナガカミキリ
勝田郡奈義町滝山

- 1♂, 18. VII. 1998, 筆者採集（灯火）

本種は良く知られた大型種であるが、中国地方では産地も少なく局地的な分布を示しており、岡山県内においても既知産地は高梁市臥牛山だけである。今回の記録が県内2カ所目の産地である。文末ではあるが、貴重な記録の発表を許された福田元信、山地治の両氏には心から感謝申し上げる。

（〒701-0111 倉敷市上東1050-1）

大佐山のウラクロシジミ

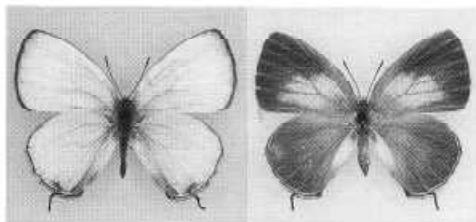
中村具見

県内では、中国山地帯において点々と生息が確認されているウラクロシジミを、大佐山で採集しているので報告しておく。

阿哲郡大佐町大佐山中腹 (600m), 1♂, 13. VII. 1997; 31♂1♀, 7. VI. 1998

採集したのは、日当たりのよいやや乾燥した山腹に

付けられた林道沿いで、付近の斜面一帯はアカマツやカシワが優占する二次林となっており、中低木層や林縁にアテツマンサクが多数自生している。



左：♂ 右：♀

本種は、一般にマンサク類の自生する環境から渓谷地帯を生息地とすることが多いが、食樹さえまとまつてあれば、山腹や乾燥した斜面なども生息地となるようである。

1998年は全体に昆虫の発生が早かったせいか、6月上旬で既に多数の個体を見ることができた。

(〒719-1134 総社市真壁1048)

岡山県からハチモドキハナアブを記録

近藤光宏

筆者は、このほど岡山県南部に位置する都窪郡早島町において、運良く本種1♂(写真参照)を記録することができたので、報告する。

Syrphidae ハナアブ科

Ceriodini ハチモドキハナアブ族

Monoceromyia pleuralis (COQUELLETT)

ハチモドキハナアブ

1♂、岡山県都窪郡早島町、24.VIII.1998、コナラの樹液付近で採集



本族の同定のポイントは、主に顔面、触角、腹部などの違いによるが、本種の場合は腹部の第2節が強くくびれている(写真参照)ので容易に区別できる。

次に本種の分布及び生態について述べると、平嶋義宏(1989)によれば、本州、九州、及びソ連極東部と

ある。一方、大原賢二(1997)によれば、成虫は6~8月に見られ、本州、四国、九州に分布し、クヌギやニレなどの樹液によく飛来するとある。早島町の場合も流通センター西入り口付近の標高およそ50mの丘陵地にあって、コナラの幹に止まつたり、樹液独特の発酵臭の漂う付近をホバリングしたりを繰り返していた個体がたまたま目に止まり、採取に恵まれた次第である。それにしても、これほどハチ(中でもドロバチ)に擬態しているアブはそんなにはいないのでは?殺虫管に収めてアブと確認できるまではとても素手で扱むことはできなかった。

本種の記録については、岡山県(1978)にはすでに県内産記録種として挙げられている。しかし、これは当時原色昆虫大図鑑(北隆館)による図鑑同定によるものであった。ところが、その後同図鑑にあるハチモドキハナアブは、池崎善博・市場利哉(1995)によりヒサマツハチモドキハナアブの誤りであることを知る。従って、他に記録情報がなければ、今回の記録が県内初記録となるわけである。なお、ヒサマツハチモドキハナアブについては、本県未記録種として、すでに本誌133号(近藤、1998)に報告済みである。

近藤(1998)では、日本に産するハチモドキハナアブ族は、大原賢二(1997)により、ヒサマツハチモドキハナアブ、ハチモドキハナアブ、ケブカハチモドキハナアブの3種であると報告していたが、過日、大原賢二氏より日本には北海道にもう1種分布するとの私信を頂いた。従って日本産種は4種となる。

おわりに、徳島県立博物館主任学芸員の大原賢二氏には本報文に関する貴重な助言を賜った。ここに厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 池崎善博・市場利哉、1995. 佐賀県で採集したハナアブ類、佐賀の昆虫、(29) : pp.661-668.
- 大原賢二、1997. 今月の虫(ケブカハナバチ)、インセクタリュウム、(3) : pp.23. 東京動物園協会、多摩動物公園昆虫愛好会、東京.
- 岡山県、1978. 岡山県昆虫生息調査報告書、146pp.
- 岡山県昆虫生息調査団、岡山.
- 近藤光宏、1998. 岡山県からのヒサマツハチモドキハナアブの記録、すずむし、(133) : pp.23-24.
- 平嶋義宏、1989. 日本昆虫総目録、ハエ目、pp.699-873. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター、北九州.
- (〒710-0046 倉敷市中央2-6-1、倉敷市立自然史博物館)

岡山県英田郡作東町の川で採集したトンボ幼虫

守安 敦*・近藤 隆夫**

岡山県北東部のトンボのまとまった報告としては、作東の蜻蛉類¹⁾、作東の蜻蛉類²⁾及び美作の昆虫(1)³⁾の3つが知られている。しかし、これらは30年以上も前のものであり、最近のまとまった報告はないようである。特に、英田郡内での報告はほとんど知られていない。

筆者らは、英田郡作東町万善の川で、県内では比較的分布が限られている種も含め、6科11種のトンボ幼虫を採集したので、報告する。

以下の個々のデータは、すべて幼虫の記録であり、また、採集地名（すべて「英田郡作東町万善」である）の表示は省略したが、メッシュコードは2つの区分に及ぶので、個体数の次に採集地のメッシュコードを（ ）書きで明示し、採集者と保管者は筆者らに限られているので、姓のみを記した。

Calopterygidae カワトンボ科

1. *Calopteryx cornelia* SELYS ミヤマカワトンボ
1ex., (52343136), 17. I. 1999, 守安採集・保管
2. *Mnais pruinosa pruinosa* SELYS ニシカワトンボ
1ex., (52313126), 17. I. 1999, 守安採集・保管

Epiophlebiidae ムカシトンボ科

3. *Epiophlebia superstes* (SELYS) ムカシトンボ
1ex., (52313126), 11. I. 1999, 近藤採集, 守安保管 (飼育中)
1ex., (52313126), 17. I. 1999, 近藤採集, 守安保管 (飼育中)

Gomphidae サナエトンボ科

4. *Asiagomphus melaenops* (SELYS) ヤマサナエ
1ex., (52313126), 11. I. 1999, 近藤採集, 守安保管
5. *Davidius fujiamae* FRASER クロサナエ
1♂, (52313126), 11. I. 1999, 近藤採集, 守安保管
1♂, (52343136), 17. I. 1999, 守安採集・保管
3♂, (52313126), 17. I. 1999, 守安採集・保管
6. *Stylogomphus suzukii* (OGUMA) オジロサナエ
1ex., (52313126), 17. I. 1999, 守安採集・保管

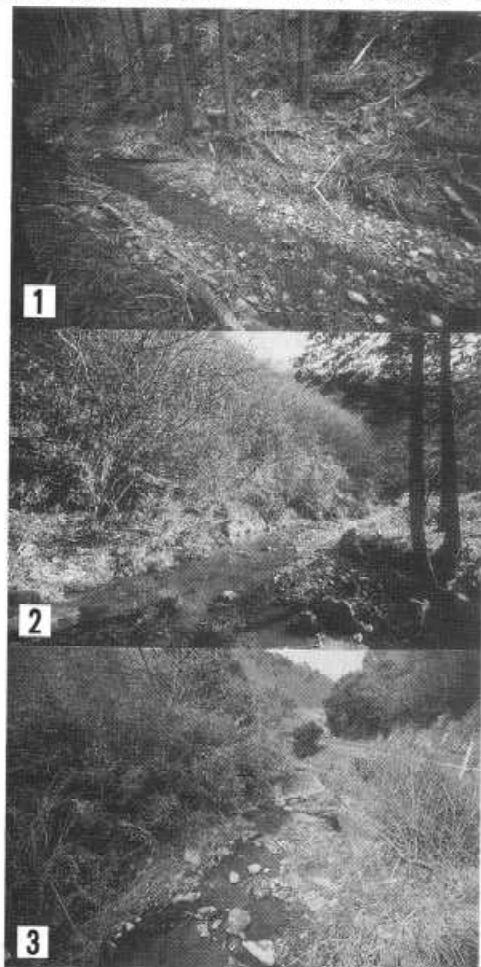
7. *Lanthus fujiacus* FRASER ヒメクロサナエ
2exs., (52343136), 17. I. 1999, 守安採集・保管

Cordulegastridae オニヤンマ科

8. *Anatogaster sieboldii* (SELYS) オニヤンマ
1ex., (52313126), 17. I. 1999, 近藤採集, 守安保管

Aeshnidae ヤンマ科

9. *Boyeria macrachtani* (SELYS) コシボソヤンマ
1ex., (52313126), 11. I. 1999, 近藤採集, 守安保管
1ex., (52313126), 17. I. 1999, 守安採集・保管



* 〒710-0843 倉敷市浦田2430

** 〒703-8282 岡山市平井7-14-3

10. *Planaeschna milnei* (SELYS) ミルンヤンマ
lex., (52343136), 17. I. 1999, 守安採集・保管
Corduliidae エゾトンボ科

11. *Macromia amphigena amphigena* SELYS
コヤマトンボ
lex., (52313126), 17. I. 1999, 守安採集・保管

薄暗い杉林の中を流れる細い支流（写真1）で、ミヤマカワトンボ、ヒメクロサナエ、クロサナエ、ミルンヤンマを採集した。また、その場所から約400m下流の周りが比較的開けている部分（写真2）で、ニシカワトンボ、ヤマサナエ、クロサナエ、ムカシトンボ、コシボソヤンマを採集した。ムカシトンボは、2個体とも瀬の部分のこぶし大の石についていた。時間をかけて探したが、他には採集できなかった。そこからまた約300m下流（写真3）では、オジロサナエ、クロサナエ、オニヤンマ、コシボソヤンマ、コヤマトンボを採集した。

ムカシトンボについては、筆者の1人守安が、報告した（）ように、岡山県中南部の採集地は、すべて地質は古生層である。今回の採集地も中生代の地層ではあるが、川底の石は黒っぽく古生層に近い感じで、この地域南部に多い流紋岩とはまったく違っていた。

今後とも、この地域で調査を統ければ、今まで記録されていない種が見つかる可能性もあるように思われる。

引用文献

- 1) 安東瑞夫, 1956a. 作東の蜻蛉類1. すずむし, 6 (2): 1-5.
- 2) 安東瑞夫, 1956b. 作東の蜻蛉類. すずむし, 6 (3): 1-7.
- 3) 道信順, 1968. トンボ目録. 美作の昆虫(1)
チャウ・カミキリ・ハチ・トンボ分布資料,
pp.22-26. 美作虫の会, 津山.
- 4) 守安敦, 1996. 岡山県におけるムカシトンボの分
布と新産地. すずむし, (129): 33-34.

おどしぶみ

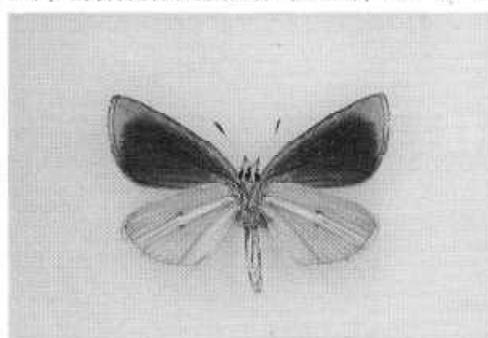
哲西町でギンイチモンジセセリを探集

中村具見

ギンイチモンジセセリは、県内では北部の中国山地に多くの産地があり、吉備高原地域からは新見市土橋（渡辺, 1989）の記録が知られているだけである。

筆者は、吉備高原地域の西北部に位置し、これまで記録がなかったと思われる哲西町において本種を探集しているので、下記のとおり報告しておく。

1♀, 阿哲郡哲西町矢田谷 (400m), 15. VII. 1998



水田に沿った農道べりの草むらで発見したもので、きわめて新鮮な個体であった。付近の草原を探してみたがこの他には見られなかった。

引用文献

渡辺和夫, 1989. 草間台地でギンイチモンジセセリ.
すずむし, (123): 28

(〒719-1134 総社市真壁1048)

岡山県産ムネアカアワフキの追加記録

近藤光宏

岡山県産のムネアカアワフキについては、本誌第132号に報告済である。ところがその後、故重井博氏によってそれ以前にすでに採集されていることが分かったので、ここに追加記録として報告しておく。

Hindoloides bipunctatus (HAUPT) ムネアカアワフキ
2♀, 真庭郡勝山町神庭の滝, 29. IV. 1964, 重井
博氏採集

上記の個体は倉敷昆虫館展示室（倉敷市幸町2-30 しげい病院8階）に展示収蔵されている。

なお、県内において未発表の記録があれば、この際是非ご報告して頂きたい。

おわりに、40年も前に貴重な本種を採取し大切に所蔵されていた重井博氏に敬意を表すとともに、当記録についてわざわざご紹介頂いた倉敷昆虫館々長の小野洋氏に厚くお礼申し上げる。

(〒710-0046 倉敷市中央2-16-1,

倉敷市立自然史博物館)

岡山県におけるグンバイトンボの 1998年の早期採集記録及び新産地について

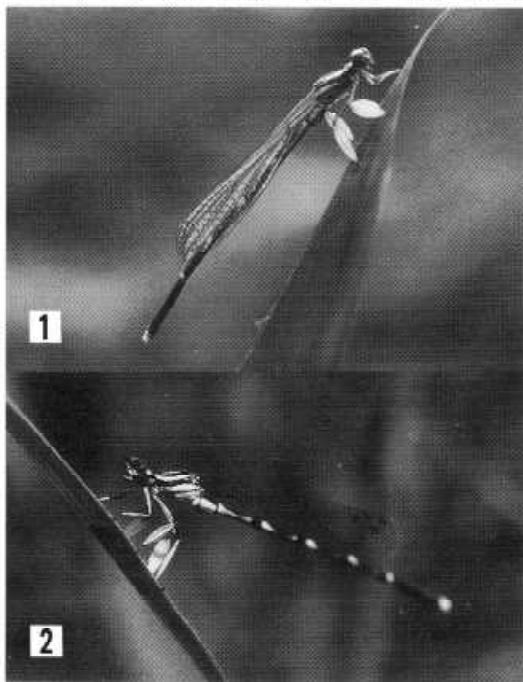
大島 康宏*

グンバイトンボ *Platychemis foliacea sasakii* ASAHINA は、本州では宮城県の1産地と関東以西、四国、九州に分布が知られており、モノサシトンボ科では日本最小種で、♂は中・後肢が白色の軍配のように広がっている特徴を持つトンボである。主に丘陵地の湧水にかかるわりのある緩やかな清流に生息しているが、きれいな水が常時補給される水たまりでも生育することが知られている（石田ほか、1988）。

県下においては本種の記録は少なく、極めて局地的な種であると思われていたが、最近では三大河川（高梁川、旭川、吉井川）流域からの報告も複数あるなど、その分布像解明に向けた取組みが進められている。

この度、筆者は旭川流域の新産地と思われる地域で本種を得たのでここに報告する。採集地はすべて岡山県加茂川町宇甘溪である。

1 ♂ 2 ♀ (全個体未熟), 5. V. 1998, 筆者採



集・保管 (うち1♂:写真1)

1♂ 1♀ (全個体未熟), 5. V. 1998, 浦田圭子氏採集・保管

4♂ 1♀ (全個体未熟), 17. V. 1998, 筆者採集・保管

♂♀各数頭 (成熟及び未熟個体), 5. VI. 1998, 筆者目撃確認 (うち成熟♂:写真2)

生息環境は前述したような環境であるが、県下においては、岡山市の旭川本流でかなりの数の個体が見られた報告（守安、1997）や、今回筆者が確認した当地の記録から考えると、比較的大きな川と草地の境界付近（写真3参照）にも生息しているようである。



5月5日の記録は、最初に見つけた草むらに止まっている1♀をモノサシトンボと思い見逃したところ、同じ場所に止まっていた♂を発見し、本種と確信してから採集したものである。本種としては早い時期の記録と思われる。

採集地が比較的近く、また未熟個体の得られている岡山県有漢町上有漢での記録と気温等の条件を比較してみると、当地よりも年平均気温が約1℃低い有漢町

* 〒713-8122 倉敷市玉島中央町1-20-7

上有漢では、未熟個体が1997年6月17日に採集されたと報告（守安，1997）されている。約1℃の差があるとはいえ、1カ月以上もの時間の差から考えると、今回報告した5月5日の個体はかなり早い時期に羽化しているものと思われる。また、6月5日に目撃したものについては、成熟個体があつたものの未熟個体も確認されたので、この日と上有漢の6月17日を比較すると、大幅に早いとは言えないかもしれない。しかし、石田ほか（1988）によると本種の出現時期は東海地方で5月下旬から8月上旬とされており、1990年以降の県下での採集記録の平均が6月20日頃であったこと、1998年7月17日には当地においても1個体も本種を確認することができなかつたことなどから、何らかの理由で出現時期が早くなっていることが考えられる。

当面考えられることは、近年増加し続ける二酸化炭素濃度のためか、1998年の初夏は比較的暖かかったため、この気温の影響で早い時期に羽化したのではない

かということであろう。本種と同様に、その他の昆虫類も比較的早い時期から確認されている。

しかし、この現象が1998年に限ったことなのか、それとも、この地域だけ他の地域よりも出現時期が早いのかなどは、来年、再来年と調査を継続してみなければ分からぬ。引き続く調査を行いたいと考えている。

末筆ではあるが、今回本種を検するにあたって貴重な助言を頂いた渡辺和夫氏、調査に同行して頂いた上、記録の報告を快く許された浦田圭子氏に厚くお礼申し上げる。

引用文献

石田昇三、石田勝義、小島圭三、杉村光俊、1988、日

本産トンボ幼虫・成虫検索図説、72pls., 105figs.,
140pp. 東海大学出版会、東京。

守安敦、1997、岡山県におけるグンバイトンボの分布
と新産地。すずむし。(132) : 13-15.

おとしふみ

チッチゼミ脱殻の記録と県内分布

近藤光宏

筆者は、このほど総社市黒尾のアカマツ林を散策していく中、チッチゼミの脱殻（写真）を採取する機会に恵まれたので、報告する。

Cicadidae セミ科

Tibicininae チッチゼミ亜科

Cicadetta radiolar (ULLER) チッチゼミ

1♂(脱殻)、岡山県総社市黒尾、20.VII.1998.

近藤弘美・筆者



標高約300m地点で、直径およそ10cmのアカマツの目の高さほどの位置で目撃し、採集した。

チッチゼミは、県南部の丘陵地帯、県中部の山林で生息が確認されている。しかし、小型であること、鳴

き声がセミらしくないこと、更には成虫の発生期が遅い（最盛期は9-10月）ことなどから一般にあまり知られていないようである。筆者も、脱殻を記録したのは今回が初めてである。

現在のチッチゼミの県内生息域を見ると、手元の記録情報では久米郡旭町の森上山が北限となっており、それより北は未確認地帯である。今後、県下のより正確な分布を知るためにも、筆者の手元にある既記録地11地点を地図上にプロットした。（図参照）



図：チッチゼミの既記録地

ちなみに、日本に産するチチゼミ亜科は、平嶋義宏（1989）によれば、チチゼミ、エゾチチゼミとクロイワゼミの3種であって、県下にはチチゼミのみを産する。

引用文献

- 青野孝昭・奥島雄一編, 1994. 倉敷市生物目録〈昆虫類〉, pp.93-233, 倉敷市立自然史博物館, 倉敷。
 赤枝一弘, 1963. 岡山県のセミ, すずむし, 13(2), pp.17-18.
 小野洋, 1976. 福山山系の半翅目, 倉敷の自然福山山系, 林熊野神社山系, 下津井城山, pp.59-60, 倉敷市企画部, 倉敷。
 近藤光宏, 1991. 高梁市臥牛山昆虫目録, pp.1-11, 高梁市教育委員会「臥牛山の猿生息地」調査団, 高梁。
 平嶋義宏, 1989. 日本産昆虫総目録, 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター, 福岡, (〒710-0046 倉敷市中央2-6-1, 倉敷市立自然史博物館)

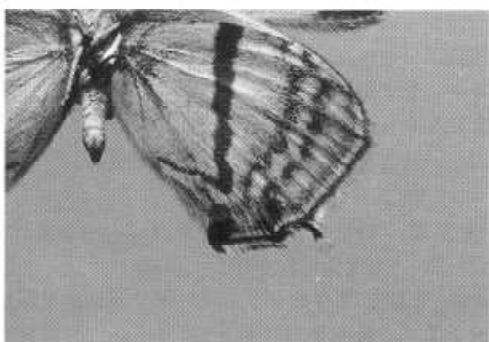
ミズイロオナガシジミの尾状突起に奇形を持つ個体について

大島 康宏

Takasaki & Shinkawa (1998) は、ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri* FENTON の尾状突起に奇形を持つ個体を報告したが、筆者もこれと同様な奇形を左後翅に持つミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* BREMER を採集しているので、ここに報告する。

1ex., 岡山県川上村明連渓谷, 25. VI. 1998, 筆者採集・保管

尾状突起が後方から前方に向って後翅外縁に潜り込み、第5脈近くから出てきている（写真）のが分かる。



これは、ゼフィルス類が蛹期に成虫体を形成する時、どのようにして尾状突起が形成されるのか、また、尾状突起がどのようにして進化しているのかを調べる手

がかりになると思われる。

参考文献

- Takasaki, Hroyuki & Tsutomu Shinkawa, 1998. An aberrant brown-banded hairstreak (*Antigius butleri*) suggests the morphogenetic origin of the lycaenid hindwing hair-like appendages. Butterflies, (19) : 58-59.

(〒713-8122 倉敷市玉島中央町1-20-7)

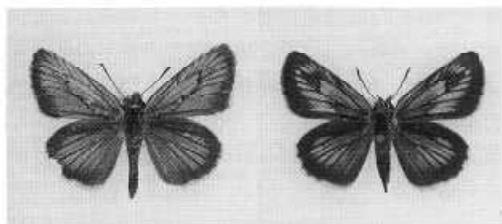
スジグロチャバネセセリの新産地

中村具見

スジグロチャバネセセリは、県内では吉備高原の北西部から中国山地にかけて点々と生息地が知られている。高梁川流域では、新見市井倉付近が既知の南限と考えられるが、さらに下流の高梁市及び総社市においても確認することができたので報告しておく。

♂1, 高梁市津川町津和谷 (90m), 2. VII. 1995
 高梁川に面した旧道べりで得た。いずれも発生初期のきわめて新鮮な個体であった。

♂1♀1, 総社市中尾・奥 (150m), 27. VI. 1998
 比較的湿潤な渓谷の道べりで得たもの。時期的に盛期をやや過ぎていたようで、♂は全般的に汚損していたが、♀は新鮮であった。



左：♂, 右：♀ (いずれも総社市中尾・奥産)

(〒719-1134 総社市真壁1048)

クロアナバチのツユムシ狩り

近藤光宏

クロアナバチやキンモウアナバチなどアナバチの仲間が、ツユムシなど自分より大きなバッタ目の仲間を狩って巣に運ぶ時、一旦高所に這い上がってから、落下する自然の力を巧みに利用することはよく知られている。しかしながら、私はこの度初めて観察する機会に恵まれたので、その時の状況等ふまえて報告することにする。

1997年8月31日午前10時ごろのこと、その日は倉敷の自然をまもる会主催による倉敷川クリーン作戦が展

開され、残暑厳しい炎天下の奉仕作業を終えての帰り道だった。倉敷川にかかる橋（東芝橋）のたもとで、せわしげにツユムシを引っ張ってうろついているクロアナバチが目に止まった。わずかに飛び立ったかと思うと、図らずも私のズボンの裾辺りへ止まり、今度はぞろぞろと這い上がり始めたのである。首まで登って来ては大変と、とっさに胸の辺りで阻止したところ、飛び立ち、舗装道路を路面すれすれに30mほど飛んで着地し、再び獲物を口にくわえて引っ張っていた。奉仕作業の疲れと暑さで、やむなく観察はここまで終わったが、営巣は着地点のもう少し先に宅地造成地があり、その辺りに造られているのではないかと思われた。

(〒710-0046 倉敷市中央2-6-1,
倉敷市立自然史博物館)

オオヨツスジハナカミキリの記録

山 地 治

倉敷市から未記録だったオオヨツスジハナカミキリ *Leptura regalis* (BATES) の記録を頂いているので、報告する。

1♀, 倉敷市美和町, 10. VI. 1998, 千田善博採集・保管

飛んできたところを採集したそうである。なお、この個体は、倉敷市立自然史博物館での標本の名前を調べる会において、青野孝昭氏が倉敷市初記録と確認されたものである。

貴重な記録の報告を託された千田善博氏、青野孝昭氏に感謝する。

(〒701-1221 岡山市芳賀5116-11)

フタテンカメムシの採集記録

近 藤 光 宏

海岸性で、個体数も少ないとされるフタテンカメムシ(図及び写真参照)が記録されているので、ここに報告する。

この記録はいずれも、かつて本会の青野孝昭氏がライトトラップによって採集した個体を譲り受けていたものである。なお、これまで岡山県からの採集例は報告されていないものと思われる。

Laprius gastricus (THUNBERG) フタテンカメムシ
1ex., 岡山県邑久郡通り山, 5. VII. 1987, 青野
孝昭採集 (ライトトラップ)

1ex., 岡山県岡山市三和面室, 6. VIII. 1989, 青



図：フタテンカメムシの記録地点

野孝昭採集 (ライトトラップ)

島根県 (1997) では、本種は全国的に希少種として扱われ、記録地が隠岐に限られることなどから「要注意種」に取り上げられている。

また、友国雅章 (1993) によれば、本種は海岸のスキなどイネ科植物の根ぎわで生活するが、やはり個体数は少ないとされている。

体長は11~14mm。体色は灰褐色から黒褐色で、地味なカメムシである。

末筆ながら、本種の標本を快くお譲り下さった上に、発表をお許し頂いた青野孝昭氏に感謝申し上げる。

引用文献

友国雅章, 1993. 日本原色カメムシ図鑑. pp. 221-222. 全国農村教育協会, 東京.

島根県, 1997. しまねレッドデータブック島根県の保護上重要な野生動植物動物編. 417pp. 三瓶フィールドミュージアム財団, 大田.

(〒710-0046 倉敷市中央2-6-1,

倉敷市立自然史博物館)

安江安宣先生を偲ぶ

河 田 和 雄



安江安宣先生は平成10年12月11日急逝されました。最近までお元気でおられた先生が、忽然とご他界にならうとは夢想だにしなかったことで、痛恨の極みです。先生は大正3年大阪市でお生まれになり、京都大学農学部をご卒業後、東京大学伝染病研究所、京都大学農学部勤務を経て、昭和24年3月岡山にこられました。そして、岡山農業専門学校、岡山大学農学部、同資源生物科学研究所において、昭和55年定年退官まで教育と研究に心血を注いでこられました。その研究成果は120篇におよぶ著書論文に集大成されています。この間、昭和53年4月から55年3月まで研究所長として研究所拡充のためにご尽力されました。

先生は、また、文部省、岡山県、倉敷市などの各種審議会委員を歴任され、地域社会の発展に大いに貢献されました。先生の温厚で誠実なお人柄を慕って、専門家は勿論のこと、アマチュアの昆虫愛好家も数多く集まって、先生の周囲はいつもなごやかな雰囲気に包まれていました。特に倉敷昆虫同好会の皆様とは親しくされ、研究室の図書や設備を自由に提供され、物心両面から同好会初期の活動を支えてこられましたのも、先生の昆虫学に対する情熱と、後進を育成する熱意からだったと思われます。

先生は昆虫生態学の第一人者として、常に学会をリードされてきましたが、研究領域は昆虫だけにとどまらず、細菌から淡水魚にまで広範囲にわたっており

ました。一見昆虫とは無関係と思われる研究対象に、当初、私は戸惑っておりましたが、あとで生態学の流れの一環として、昆虫にも深くかかわっていることがわかり、改めて先生のご慧眼に感心し、自分の未熟さを思い知らざることもありました。

先生は大の読書家としても有名でした。書物と一緒に生活されていたと申しましても過言ではありません。ご退官後は東京のご自宅に大きな書斎をつくれられ、ごく最近まで新しい本をご購入熟読されていたとお聞きしていました。先生の大好きな本がご不幸の原因の一つになったとしましたらとても残念です。

このたび、にわかに不帰の客となられ、再び先生のご温容に接することができなくなり、誠に残念でなりません。今となりましては、亡き先生のご愛顧に深く感謝の意を表すとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

安江安宣先生略歴

大正3年4月5日	大阪市に生まれる
昭和13年3月	京都高等蚕絲学校卒業
昭和16年3月	京都帝国大学農学部卒業
昭和16年4月	東京帝国大学伝染病研究所嘱託
昭和21年7月	京都帝国大学農学部助手
昭和24年3月	岡山農業専門学校教授
昭和26年4月	岡山大学農学部助教授
昭和27年5月	岡山大学農学部附属大原農業研究所助教授
昭和37年3月	京都大学より農学博士の学位を受ける (学位論文: ニジュウヤホシテントウ類の生理生態学的研究)
昭和38年8月	京都大学西イリアン学術探検先遣隊長
昭和38年12月	京都大学西イリアン学術探検副隊長
昭和43年5月	岡山大学農業生物研究所教授
昭和44年12月	岡山大学南方地域農業生物学術調査隊長(文部省海外学術調査)
昭和53年4月	岡山大学農業生物研究所所長
昭和55年4月	岡山大学教授定年退職
昭和55年4月	岡山大学名誉教授
昭和62年4月	勲三等旭日中綬章授与
平成10年12月11日	逝去 享年84歳 (〒719-1132 総社市三輪139-5)

安江安宣先生の思い出

青野 孝昭

倉敷昆虫同好会が創立された1951年。丁度その年の夏、同好会生みの親とも言える顧問の深谷昌次先生が、東京の農林省農業技術研究所へご榮転になられた。農地法の影響で大原農業研究所は岡山大学に寄贈され、深谷先生が活躍されていた害虫研究室はその年度後半、主がいなくなつて一時はどうなることかと心配であつた。

そこへ、翌年の4月安江先生が着任され、顧問はもちらんのこと研究室への出入りもお認めくださり、私たちは安堵することができた。以来、安江先生は同好会のよきパトロン的存在として陰に陽に同好会に便宜を与えられ、私たちを導いてくださった大事なお方であった。当時のアルバムをめくつてみると、いかにも食いに挑戦しようと、先生の研究室に小野、友野、安東、水野、若林、近藤、筆者といった連中が集まり、セミの空揚げをつまみに、ビールで気勢を上げている様が写されていて、大変懐かしい思いに駆られる。

先生は害虫防除を目的とした研究に従事されながらも、材料としてお扱いになられたヤサイゾウムシやマダラテントウ類をはじめ、ミヤマアカネ、シルヴィアシジミなど、動物地理学上のご功績も顕著で、野外にお出かけのことが多く、同好会の目的の一つである昆虫相調査と重なる部分があつただけに、余計に親しくお導き頂けたように思われる。

特に、山歩きについては日本山岳会に所属されていた本格派であられた。かつて、第2次世界大戦前より関心をお持ちであったニューギニア島イリアン・ジャヤに聳える東南アジアの最高峰ジャヤ山（スカルノ峰）登頂をめざされたこともあり、このときはマレー語にも通じておられた先生が直々スカルノ大統領にお会いになられ、インドネシア政府の理解と協力を得て遠征されたとお聞きしている。

1966年の第4回国際気象学会に指名招待され、ヤサイゾウムシの生態地理学的研究発表で渡米された時には、併せてニューヨーク自然科学博物館などアメリカ東部の博物館や研究施設を訪問された。その折りの見聞やそれに関連しての生態学的考察を交えたお話を同好会例会で私たちにご講演くださったり、そのまとめの論文を「すずむし」に寄稿くださったりしたことも昨日のことのように思い出される。

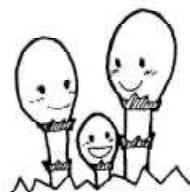
1970年代には、自然保護・環境保全の気運が高まり、水ノ山・後山・那岐山国定公園拡張に関連して先生は岡山県北部国定公園拡張予定地域の昆虫類調査を73年に引き受けられ、私たちもご協力申し上げたことがあった。後で漏れお聞きしたところでは、その資料のまとめに、先生は大変ご苦労なさったとのことで、そのときは知る由もなかった。続いて、74年度末には、岡山県の昆虫生息調査をお受けになり、このときは重井先生に調査団長への就任を強く希望され、ご自身は一団員として参加され、私たち数名の者がメンバーにお加え頂いた。県から与えられた人數枠と期間は僅少で、厳しい条件下に置かれていたが、75年度からの2年間というものの誠心誠意県内を調べて回り、それなりの成果は挙げることができたのではないかと考えさせて頂いている。

安江先生の思い出でもう一つ忘れないことに、文献収集に並々ならぬご熱意をお持ちだったことがある。常々あちこちお出かけの折りには欠かさず古本あさりをするとおっしゃっておられ、ある時、稀覯本で知る人ぞ知る「博物之友」を掘り出され、岡大農生研図書館にその一部を入れることができたと満面に笑みをたたえながらお話くださったことがある。これには明治後期の岡山県昆虫相の一面を伝える貴重な報文が含まれ、その一部をかつて「すずむし」誌上に紹介させて頂いた。また、ユンクの甲虫目録が揃いで同図書館へ入ったのも安江先生のご尽力の賜である。

数年前上京した折り、国会図書館で文献を探索していたところ、ひょっこり安江先生にお会いし、懐かしさのあまり、しばらくお話しさせて頂いてお別れしたことがあった。定年退官後も文献を大切にされながら研究を進めておられるお姿に、頼もしさを感じさせて頂いていたのに、それが最後のお別れにならうとは。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（〒710-0817 倉敷市大内937-8）



安江先生の思い出

近藤光宏

私にとりまして、安江安宣先生の最新のイメージといえば、かれこれ20年ほども前のことになりますが、1980年3月、先生が元岡山大学農業生物研究所（現岡山大学資源生物科学研究所）の所長を最後に退官され、郷里の東京へ引き上げられる時の、とてもお元気そうな先生であり、その面影です。然るに、この度突然の訃報に接し、我が耳を疑った次第であります。ここに、先生との思い出を幾つか述べさせて頂くことで、いさかでも受けた御恩に報いることができれば幸甚であります。



前列右端が安江安宣先生、後列左端が筆者

先生は、倉敷昆虫同好会のために、先生の研究室を解放して下さいました。土曜日の午後には仲間と共にしばしばお邪魔させて頂き、湯茶のお世話にもなりました。このように、アマチュアである私共を分け隔てなくいつも暖かく迎えて下さいました。また、同好会の例会や採集会などの諸行事にも気軽にご参加下さり、ご指導を賜りました。中でもご専門の生物気象学の立場で研究を進めておられたオオニジュウヤホシテントウやミヤマアカネのお話しさは印象深く、今でも強く心に残っています。採集会にもよくご一緒して下さり、

フィールドの大切さや楽しみ方を、肌を通して教えて下さいました。写真は、先生とご一緒に恩原方面へ出かけた際、一夜の宿としてお世話になった国民宿舎白雲閣前にて、出発前に先生が自ら映して下さったものです。多少映りが悪いのはスライドからプリントに起こしたもので、当時の写真技術ではこれが精一杯だったのではないかと思います。今となっては先生から頂いた大変貴重な写真であります。そして、先生がご案内して下さったのは、赤和瀬渓谷の更に上流奥地にかかる県下では著名な岩井滝です。この滝は珍しく滝の内側に入ることができて、内側からレース状に落ちる滝を通して見える景色は格別きれいで、機会があれば今一度訪れてみたい滝の一つです。

以上のように、今まで同好会が存続し、発展してきたのは先生の暖かいお支えがあったからであり、先生は倉敷昆虫同好会の育ての親と申し上げても決して過言ではないと思います。

次は、やや私的なことになり恐縮ですが、先生のお蔭で、私にずいぶんやる気を持たせて下さったことがありました。それはある日のこと、大学のゼミの席で発表の機会を与えて下さったことです。発表内容は、マダラナギナタハバチの生態に関するものでした。まだ、国内ではこの種の生態は全く解っていませんでした。そこで私は、教え子の一人である本会会員三宅宗夫氏との共同研究の成果を披露させて頂きました。今から思えばこのようなことは最初で最後であって、先生のご配慮によって忘れ難い思い出の一つとなっております。

末筆になりましたが、かつて先生に大変お世話になりました倉敷の地より心からご冥福をお祈り申し上げます。

(〒710-0046 倉敷市中央2-16-14)



林匡夫先生の死を悼む

黒田祐一

先生にお目にかかったのは、大林一夫先生（当時岐阜県在住のカミキリムシ研究家）にご紹介され、昭和19年（1944）に大阪平野町のお宅を訪問したのが初めてである。袋物屋の店先で、和服に前掛姿でお客様の相手をされておられるのがご本人と知り、一瞬驚いたのが印象に残っている。その年、関西昆虫学会報に「本邦産ニセハムシハナカミキリ属に就いて」の論文を発表されるなど、既にその後の多量の業績が始まっていたのである。

その頃まだ新幹線は開通しておらず、林・大林両家の訪問には、まず林先生宅に一泊し、翌朝奥さんの手弁当を頂いて大林先生宅へ、又はその反対のコースで年に何度もお邪魔した。物資の不自由な時代に、カミキリ好きというだけで、嫌な顔もされず奥様共々お世話を頂いたり、昭和20年岡山市の空襲で我が家が被災した時には、文献・標本に両先生より物心共にご援助頂いたのを、感謝の気持で何時も思い出します。

戦後暫らく倉敷にいた時、大原農研（現在岡山大学附属図書館）にある文献の複写をよく頼まれた。

その時代コピー機は無く、タイプ用紙も手に入らなかった。その為、当時新聞記者をしておられた大林先生より記事の原稿を書く紙が届けられ、友人にタイプライターを借りて、印字の勉強をしながら鍵を叩いたのも懐かしい思い出である。

昭和30年（1955）に「原色日本甲虫図鑑（上）甲虫篇」を出され、昭和36年には、ヒメハナカミキリの論文で北大農学部より農学博士の学位を授与された。

昭和39年大阪城南女子短期大学の教授に迎えられたが、この年に大林先生が亡くなられた。

昭和44年に「原色日本昆虫生態図鑑カミキリ篇」を、昭和59年に「原色日本甲虫図鑑IV」を出版され、その間渡米されるなど外国の学者と交流を深められたり、東南アジアに出掛けられ、沢山の報文を発表されるなど、その頃が一番油の乗った時代であった。

昭和47年山陽新幹線が開通して、お訪ねするのが楽になった。昭和50年頃には、先生も在職中の大阪城南女子短期大学の家庭科女子生徒を視察のために引率されて、毎年の様に来岡された。その時は夕食をご一緒し、標本を見に来られた。

先生は、お手紙の字から想像される様に几帳面で、

その上グルメであった。お宅にお伺いすると文献と標本箱の山に囲まれた部屋で、正座された膝の上でコーヒー豆を挽いて煎れて下さるか、香りのいい紅茶にブランデーを入れて出して下さった。お茶を頂きながらその時々の話を伺ったり、私の職業柄健康の質問をよくされた。

平成2年奥様を亡くされ、子供さんがおられなかつたので、全く一人になられた。これからは落ち着いて研究ができると言わっていたが…!!



1995.5.28 岡山ネオポリスにて

後：左より林、八木、野崎、刀身 前：筆者

平成9年5月に、モンクロベニカミキリの調査のため、虫友3人と来岡された。先生と採集をご一緒したのは、この時が最初であった。目的の天牛は時期が既に遅く、それではと言うことで、その頃虫界を賑わしていたヤノコモンタマムシを探りに岡山ネオポリスにご案内した。写真はその時のもので、これが最後の写真になろうとは思いもしなかった。

平成10年9月、甲虫学会の例会に初めて先生が欠席され、10月になり幹事が心配している所に計報が入ったそうである。先生とのお付き合いは半世紀以上に及び、その間言葉に尽せぬご厚情を賜わったままに終わるのは残念で、もっと長生きをして頂きたかった気持で一杯である。ここに心よりご冥福をお祈りいたします。

（〒700-0836 岡山市中央町3-6）

佐藤清明先生と岡山博物同好會

小 野 洋*

倉敷昆虫同好会は、「岡山博物同好會を母体として誕生した」といってもよいのではないでしょうか。

終戦の年が暮れようとする昭和20年（1945年）12月27日。まだまだ人々の心もうつろ、物も無かった頃。と云うよりも、日本中の人が毎日毎日を、どうやって生きていくかに懸命だった頃、と云った方がよいでしょうか？そんな中で、岡山博物同好會は早々と元気な産声を上げました。

本部（事務局）は、大原農業研究所（現岡山大学資源生物科学研究所）昆虫研究室内でした。

清心学園の佐藤清明先生が会長で、大原農業研究所の昆虫部長でニカメイチュウの越冬生理に関するご研究に専念しておられた故深谷昌次先生が顧問を、更に昆虫関係では岡山農専教授の小泉憲治先生、大原農研の小阪和彦先生その他の方々がリーダーとしてご活躍されていました。

誕生とともに、活発な活動が開始されたようで、1947年7月に発行された『岡山博物同好會會報、予報ソノ6』から2,3抄出してみると、「岡山博物同好會は、岡山県を中心として、博物文化に関する諸研究を自由に行う目的で、終戦後まっさきに結成した。総べて博物文化を愛好する人は入会できる。現在会員数約100名。現在までに、例会を16回、総会を1回開催。東京、京都、横浜に支部がある」ことなど。

そして「第12回例会（昭和22年1月5日：大原農講堂）の内容の記述や寄せ書き」が載っています。



* 〒710-0801 倉敷市酒津2580-50

この時代、既にこのような種類の活動が展開されていた岡山県は、全国的に珍しい存在ではなかったでしょうか。

当時学生時代の黒田祐一先生、故重井博先生、山川東平先生は、早くから入会、ご活躍されていて、既に例会や総会の場での活発なご発表の様子などが掲載されています。

倉昆の現在の幹事で、いわばシニアに属する人たちは、1947年（昭和22年）頃から参加されているようですが、メモが残されています。旧制中等学校の4年生以下の学年の生徒でした。

佐藤清明先生は、いつもお元気いっぱい、お顔の艶も血色もよく、大きな声で明るく話をされました。殊に青少年と話されるときは、笑顔を絶やされませんでした。永年フィールドで鍛えてこられたからでしょうか、足も速かったように思います。

いろいろな行事の前には、確実ていねいに、周到な準備をされていました。2,3年後には、私たちも準備作業のお手伝いに参加させて頂くことも多くなりましたが、その際にも大切なことをいろいろご指導頂きました。

私たちが入会させて頂いた1947年には、毎月のように行われる例会〔5月以後は、第15回（5月11日）、第16回（6月7日）、第17回（9月7日）、第18回（10月5日）、第19回（11月2日）、市民講座（倉敷商工会議所）、第20回（12月21日）〕以外にも、次のようにたくさんのイベントがありました。

5月4日 阿哲峠（井倉、方谷間）採集会

当時、道路は細く、もちろん舗装などではなく、車もめったに通らない状態で、採集観察には絶好的の環境でした。約60名ほどがゆっくりと歩いて採集、衣掛の滝でムカシトンボが採れた（岡部幸吉氏採）のを記憶しています。

6月8日 神庭の瀧採集会

7月6日 臥牛山採集会

7月11日～12日 昆虫講座（倉敷高等女学校講堂）

12日 岡山博物同好會臨時総会

8月3日 カブトガニ産卵見学会（小田郡金浦町）

8月11日～13日 伯耆大山採集会

12月8日～10日 昆虫標本を天覧に供う

天皇陛下、岡山県下に3日間御巡幸、御滞在の際、御宿舎有隣荘に持參、御座所、御座右に置いて御覧を願う。(2箱25種)

その他年1回「学徒博物コンクール」が盛大に行われ、毎年たくさんの参加者がありました。(大原農講堂)また、全国的にも有名な講師の方々を、お招きしての講演会がたびたびありました。



▲▲▲ 賞 審 内 金 査 容	第四回 学徒博物コンクール 主催 岡山博物同好会 （倉敷市大原農業研究所内） 審 佐藤 清明	▲▲▲ 資 申 日 格 込 時 昭和二十七年四月中旬 (農業研究会八十分間) 小学校、中学校、高等学校の学徒に限る 昭和二十七年三月十五日 (農業研究会三十日) （倉敷市大原農業研究所内） （倉敷市大原農業研究所内）
-----------------------	---	---

ほかにも行事としては

- ◇ 皇太子殿下行啓の際の昆虫祭（東京）その他での研究発表の図表展示
 - ◇ 池田動物園、後楽園（植物）等の観察会
 - ◇ 虫供養（観龍寺）【第4回虫供養の様子は「すずむし」Vol.1, No.12に詳しい】
- など印象に残るもののがたくさんありました。

ともあれ佐藤清明先生、深谷昌次先生をはじめ大勢の先生方のご努力で、岡山博物同好会の様々な活動を

通して多くの人々が、自然探求のスピリットを身に付け、フィールドでの自然とのふれあいの楽しさを知ることができました。

当時の先生方のご指導、大原農研、岡山博物同好会が、人々に与えたアプローチ、普及、育成についてのご功績はきわめて大きなものがありました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

おとしふみ

晩夏に採集されたクロスジギンヤンマについて

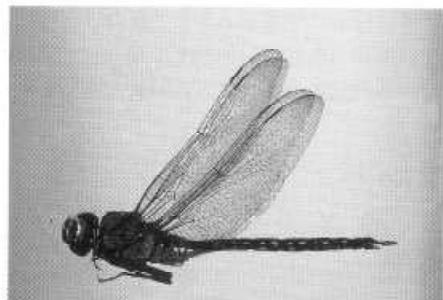
大鳥 康宏

クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus nigrofasciatus* OGUMAは同属のギンヤンマとは、胸部側面に2本の黒条を持ち、腹部がやや黒っぽいことから区別できる。

本種の出現時期は東海地方では4月上旬から6月下旬とされており（石田ほか, 1988），高知県においては3月下旬から10月中旬とされている（浜田, 1991）。夏から秋にかけて出現する個体は2回目の発生と考えられ、南の地方にいくにしたがって2回目の発生が起こりやすくなっているようである。

岡山県においては夏から秋にかけて出現する本種の記録は珍しいと思われる所以報告する。

1♂、岡山県川上村蛇ヶ巣湿原、20. VIII. 1998，筆者採集・保管（写真）



引用文献

- 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊, 1988. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説, 72pl s., 105figs., 140pp, 東海大学出版会, 東京。
浜田康, 1991. 土佐のトンボ, 183pp, 高知新聞社, 高知。

（〒713-8122 倉敷市玉島中央町1-20-7）

総社市のクモガタヒヨウモンの記録

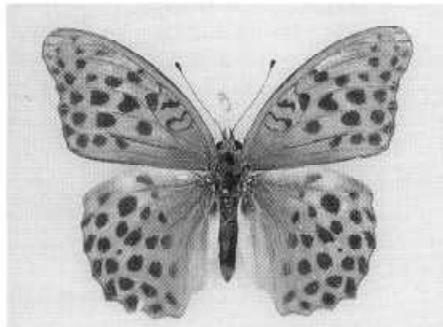
中村具見

クモガタヒヨウモンは、ヒヨウモン類の中ではもともと早期に出現する種として知られているが、他のヒヨウモン類と同じく、最近ではあまり見られなくなってしまった。

岡山県内では吉備高原地域以北からの報告例が大部分であり、瀬戸内沿岸の平野部からの記録は多くないようである。

筆者は、吉備高原地域と瀬戸内沿岸低地帯の境界に位置する総社市西部で本種を得ているので、県南部における分布資料の一つとして下記のとおり報告しておく。

1♂、総社市久代・田広木 (180m), 10. VI. 1995



時期的には少し遅かったせいか、やや飛び古した個体であった。 (〒719-1134 総社市真壁1048)

「トゲナナフシ岡山県初記録なる」の訂正

近藤光宏

[本誌(133) : May 20, 1998]に発表した表記並びに報文中(pp.22-23)に誤りがあったので、訂正する。

トゲナナフシを県内初記録として報告したが、大野正男先生からの私信により、今からおよそ90年前すでに記録されていること、及び新たな分布地が下記のように分かった次第である。

(過去の文献)

鈴木一郎・佐武正一, 1907. 岡山県産虫報. 博物の友, 7 (40) : pp.151-152.

鈴木一郎・佐武正一, 1908. 岡山市付近の昆虫. 博物の友, 8 (56) : pp.271-274.

(記録のある県・島嶼部の追加分)

千葉、東京、神奈川、静岡、愛知、長野、石川、福井、奈良、和歌山、岡山、山口；香川、徳島、愛媛；長崎、福岡、大分、熊本、宮崎、鹿児島；三宅、八丈、壱岐、五島、屋久島、奄美、沖縄

この度、あたたかいご指導を賜りました東洋大学教授大野正男先生に、深く感謝申し上げます。

(〒710-0046 倉敷市中央2-6-1,

倉敷市立自然史博物館)

倉敷昆虫同好会会則

(1987年(昭和62年)11月22日改正)

1. 本会を「倉敷昆虫同好会」と称する。
2. 本会の本部を倉敷市中央町2丁目岡山大学資源生物科学研究所内におき、事務連絡先は倉敷市幸町倉敷昆虫館内におく。
3. 本会は昆虫学に関するあらゆる研究を行い、その進歩普及をはかり、あわせて同好者間の親睦を増すことを目的とする。
4. 前項の目的を達成するために、次の諸事業を行う。
 - (1) 隨時採集会、懇談会等を行う。
 - (2) 機関誌“すずむし”を年1回以上発行する。また、連絡紙“KORAKON”を年数回発行する。
 - (3) その他目的達成のため必要と認められる行事を行う。
5. 本会の行事年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
6. 年令、性別を問わず、昆虫に関心を有し、本会の

趣旨、目的に賛意を表する者は誰でも本会に入会できる。

7. 本会の会員は機関誌の配布を受け、これに執筆し、又懇談会など本会の行う諸行事に参加することができる。ただし、会費年2,000円を前納しなければならない。会費滞納が2ヶ年以上継続し、通知しても連絡のない時は自然退会とみなされる。
8. 退会せんとするものはその旨を本会事務所に申し出ること。ただし既納の会費は返却しない。
9. 本会には幹事若干名をおく。
10. 幹事の任期は3年とする。ただし重任を妨げない。
11. 幹事改選は紙上連絡により、投票をもってこれを行う。
12. 本会の運営に関する事項、会則の変更及びその他細則については幹事会がこれを行い、紙上に発表し、会員の承認を得る。

-----目 次-----

岡山県内産アリ科採集品目録	近藤光宏	1
岡山県内産ベッコウハナアブ（属）		
5種について	近藤光宏	10
岡山県産ミズムシ類の記録	藤井陽子	13
岡山県から採集した甲虫類の記録	山地 治	17
台風10号による洪水で標着したゴミムシ		
.....	山地 治	18
岡山県御津郡建部町田地子における		
イトンボ類及びトンボ類の記録	澤田博仁	20
児島半島のゼフィルス2種の採集記録	中村具見	23
岡山県英田郡作東町の川で採集したトンボ幼虫		
.....	守安 敦・近藤隆夫	29
岡山におけるグンバイトンボの1998年の		
早期採集記録及び新産地について	大島康宏	31
安江安宣先生を偲ぶ	河田和雄	35
安江安宣先生の思い出	青野孝昭	36
安江先生の思い出	近藤光宏	37
林匡夫先生の死を悼む	黒田祐一	38
佐藤清明先生と岡山博物同好会	小野 洋	39
ーおとしぶみー		
臥牛山でのミツオホシハナノミの記録		
.....	藤谷美文	12
体長30.6mmのナツアカネを採集	守安 敦	15
総社市、岡山市、吉井町、和気町		
で採集したムカシトンボ幼虫	守安 敦	16
イシガケチョウの目撃記録3例	近藤光宏	19

岡山市高松でケブカマルクビカミキリを採集		
.....	山地 治	24
キオビホオナガスズメバチの採集記録	近藤光宏	25
岡山市足守地区のスジボソヤマキチョウ		
.....	中村具見	25
マダラツチカメムシの記録	近藤光宏	26
ヒロオビミドリシジミの		
早期採集記録について	大島康宏・土畠重人	26
岡山県内未記録のトラフホソバネ		
カミキリが採集される	渡辺昭彦	27
大佐山のウラクロシジミ	中村具見	27
岡山県からハチモドキハナアブを記録	近藤光宏	28
哲西町でギンイチモンジセセリを採集	中村具見	30
岡山県産ムネアカアワフキの追加記録	近藤光宏	30
チチゼミ脱殻の記録と県内分布	近藤光宏	32
ミズイロオナガシジミの尾状突起に		
奇形を持つ個体について	大島康宏	33
スジグロチャバネセセリの新産地	中村具見	33
クロアナバチのツユムシ狩り	近藤光宏	33
オオヨツスジハナカミキリの記録	山地 治	34
フタテンカメムシの採集記録	近藤光宏	34
晩夏に採集されたクロスジ		
ギンヤンマについて	大島康宏	40
総社市のクモガタヒヨウモンの記録	中村具見	41
「トゲナナフシ岡山県初記録なる」の訂正		
.....	近藤光宏	41



医療法人 創和会
<http://www.shigei.or.jp/sowa/>

理事長 重井 文博

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30 TEL(086)422-3655 <http://www.shigei.or.jp/shigei/>

重井医学研究所附属病院

〒701-0202 岡山市山田2117 TEL(086)282-5311 <http://www.shigei.or.jp/smrh/>

重井医学研究所

〒701-0202 岡山市山田2117 TEL(086)282-3113 <http://www.shigei.or.jp/smri/>

す ず む し 134号

1999年4月30日発行

発行者 倉敷昆虫同好会（〒710-0051 倉敷市幸町 しげい病院8階 倉敷昆虫館内）

Tel. 086(422)8207(直通) FAX. 086(421)1991

振替口座 01210-2-6927

印刷所 サンコー印刷株（総社市真壁871-2）